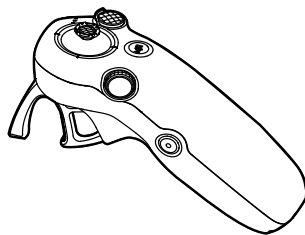
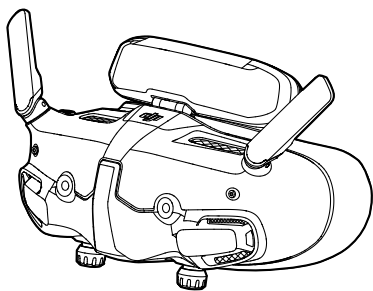
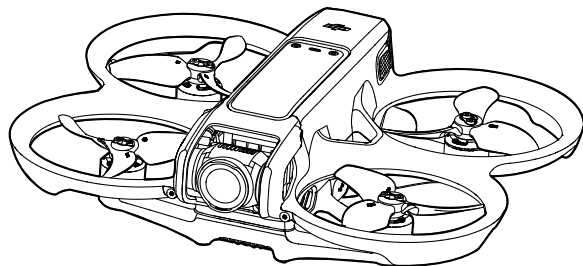


DJI AVATA 2

ユーザーマニュアル

v1.0 2024年04月





本書は、DJIの著作物であり、すべての権利はDJIに帰属します。DJIから別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用したり、他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容をDJI UAVの操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Readerを使用して本書をお読みの場合、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押して検索を開始できます。

トピックへの移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠ 重要

💡 ヒントとコツ

📖 参考

初めてのフライト前にお読みいただくもの

DJI AVATA™ 2を使用する前に以下の書類をお読みください。

1. 安全ガイドライン
2. クイックスタートガイド
3. ユーザーマニュアル

初回使用前に、すべてのチュートリアルビデオを視聴し、安全ガイドラインを読むことをお勧めします。初めての飛行に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

動画チュートリアル

以下のアドレスにアクセスするかQRコードをスキャンすると、チュートリアルビデオを視聴でき、製品の安全な使用方法を知ることができます：



<https://www.dji.com/avata-2/video>

DJI Flyアプリのダウンロード

飛行中は、必ずDJI Flyアプリを使用してください。上記のQRコードをスキャンして、最新版をダウンロードしてください。




- ⚠
- Android版のDJI Flyは、Android v7.0以降で動作します。iOS版のDJI Flyは、iOS v11.0以降で動作します。
 - DJI Flyのインターフェースおよび機能は、ソフトウェアのバージョンが更新されると変わる場合があります。実際の使用感は、使用するソフトウェアのバージョンによって異なります。

* より安全にご使用いただくために、飛行中、このアプリに接続・ログインしていない場合は、飛行高度が30 m、飛行範囲が50 mに制限されます。これはDJI FlyおよびDJIの機体に対応するすべてのアプリに適用されます。

DJI Assistant 2のダウンロード

DJI Assistant™ 2（一般向けドローン用）のダウンロード先：

<https://www.dji.com/downloads/softwares/dji-assistant-2-consumer-drones-series>

-
-  ・この製品の動作環境温度は、-10℃～40℃で、より大きな環境変動に耐えることのできるミリタリーグレードの分野での標準動作環境温度（-55℃～125℃）の条件を満たしていません。製品を適切に操作し、この製品の動作環境温度範囲の要件を満たしている分野に対してのみ実行してください。
-

目次

本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
初めてのフライト前にお読みいただくもの	3
動画チュートリアル	3
DJI Fly アプリのダウンロード	3
DJI Assistant 2 のダウンロード	4
製品の特徴	10
はじめに	10
初めてのご使用にあたって	11
機体の準備	11
DJI Goggles 3 の準備	13
DJI RC Motion 3 の準備	19
リンク作業	20
アクティベーション	21
ファームウェアの更新	22
概要	23
機体	23
DJI Goggles 3	23
DJI RC Motion 3	24
飛行安全性	26
飛行制限	26
GEO (Geospatial Environment Online) システム	26
飛行制限	26
GEO 区域のロック解除	28
飛行環境の条件	29
責任ある機体操作	29
フライト前チェックリスト	30
飛行操作	32
基本的な飛行操作	32
離陸、制動、着陸	33
前方と後方への飛行	34
機体の向き調整	35
機体を斜めに傾けて上昇または下降させる	35
ジンバルとカメラの操作	36

フライトモードの切り替え	36
ヘッドトラッキング	36
簡単 ACRO	37
スライド	38
180° ドリフト	38
フリップ	39
録画に関する提案とヒント	39
機体	41
フライトモード	41
機体ステータスインジケータ	42
Return-to-Home (RTH：帰還)	43
警告	43
トリガー方法	43
RTH 手順	44
着陸保護	44
ビジョンシステムおよび赤外線検知システム	45
検知範囲	46
プロペラ	47
プロペラの取り付けと取り外し	48
インテリジェント フライトバッテリー	50
警告	50
バッテリーの挿入／取り外し	51
バッテリーの使用	51
バッテリーの充電	53
ジンバルとカメラ	57
ジンバルの特徴	57
警告	58
映像の保存とエクスポート	58
映像の保存	58
映像のエクスポート	59
クイック転送	59
DJI Goggles 3	62
ゴーグルの操作	62
ボタン	62
AR カーソル	63
ゴーグルの画面	66

FPV ビュー	66
ショートカット メニュー	67
カメラ設定	68
ゴーグルメニュー	69
ゴーグルの映像の保存とエクスポート	72
映像の保存	72
映像のエクスポート	72
SD カードのフォーマット	72
Real View	73
Real View PiP	73
ライブビュー共有	73
モバイル端末との有線接続	74
モバイル端末とのワイヤレス接続	74
他のゴーグルへの発信	74
パノラマ／3D 動画再生	75
DJI モーションコントローラー	77
操作	77
電源のオン／オフ	77
バッテリーの充電	77
ボタン機能	78
最適な伝送範囲	79
モーションコントローラーのアラート	80
モーションコントローラーのキャリブレーション	80
DJI Fly アプリ	82
付録	84
仕様	84
DJI Avata 2	84
DJI Goggles 3	89
DJI RC Motion 3	92
対応製品	92
ファームウェアの更新	93
DJI Fly の使用	93
DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用	93
メンテナンスについての指示	94
トラブルシューティングの手順	95
リスクと警告	95

DJI Avata 2	95
DJI Goggles 3	96
廃棄処分について	96
バッテリーの廃棄	96
フライトデータ	97
アフターサービス情報	97
メンテナンス	98
ゴーグルのフォームパッドの交換	98
ゴーグルの清掃とメンテナンス	99

製品の特徴

製品の特徴

はじめに

DJI Avata 2は、プロペラガードを内蔵したコンパクトで持ち運びに便利なFPVカメラドローンです。機体はGNSSとビジョンシステムの両方を使用しており、屋内外を問わず、安定したホバリングとスムーズな曲技飛行が可能です。また、機体はジンバルと1/1.3インチセンサーカメラを搭載しているため、4K 60fpsのUltra-HD動画と4K写真を安定して撮影します。この機体の最大飛行時間は約23分^[1]です。

機体を干渉がなく遮蔽物のない環境で互換性のあるゴーグルや送信機と一緒に使用した場合、最大動画伝送範囲は13 km^[2]に達し、ビットレートは最大60 Mbpsで、没入感あふれる飛行体験を提供します。

DJI Goggles 3（以下、ゴーグル）は2つの高性能画面を搭載し、リアルタイムFPV体験を提供します。眼鏡をかけているユーザーや視覚障害のあるユーザーにより快適な体験を提供するため、ゴーグルは視度調節に対応しているので、使用中に眼鏡は必要としません。ゴーグルの前面には2つのカメラがあり、ユーザーはゴーグルを外すことなくリアルビューで周辺環境を見ることができます。DJI Goggles 3とDJI RC Motion 3（以下、モーションコントローラー）を併用すると、ユーザーは簡単かつ直感的に機体を操作することができ、新しく便利な飛行操作体験を楽しむことができます。



- [1] 機体の最大飛行時間は、無風環境下の海拔0 mの高度を定速21.6 km/h、カメラパラメーター1080p/30fps、動画モードオフ、バッテリー残量が100%から0%になるまでの条件で測定。このデータはあくまで参考用です。飛行中、ゴーグル画面に表示されるリマインダーに、常に注意してください。
- [2] 送信機は、電波干渉のない広く開けた場所で、高度約120 mの時、最大伝送距離（FCC）に達します。最大伝送距離とは、機体が伝送信号を送受信できる最大距離を指します。機体が1回の飛行で飛行できる最大距離を指すものではありません。

- ☀️ • DJI公式サイトで、機体対応のゴーグルと送信機をご確認ください。本マニュアルでは、DJI Goggles 3とDJI RC Motion 3のみを例として紹介します。その他の対応機器については、それぞれのユーザーマニュアルを参照してください。
- ⚠️ • ゴーグルを使用すると、目視内（VLOS）の範囲での飛行という要件は満たされません。いくつかの国と地域では、補助者を設け、空域や周辺に危険がないか監視してもらう必要があります。ゴーグルの使用時は現地の規制に必ず従ってください。（日本国内において屋外でゴーグルを使用しての飛行は目視外飛行になり、航空局からの飛行の許可・承認を取得する必要があります。）
- DJI Goggles 3、DJI RC Motion 3、DJI FPV 送信機 3、およびすべての種類のNDフィルターは、DJI Avata 2と完全に互換性があります。

初めてのご使用にあたって



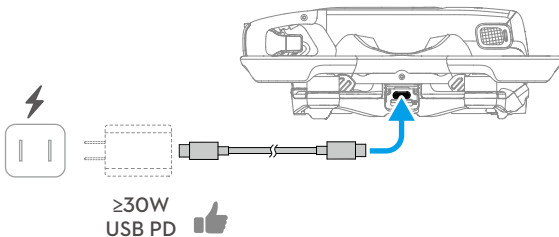
初めて使用する前に、以下のリンクをクリックし、またはQRコードをスキャンしてチュートリアル動画をご覧ください。



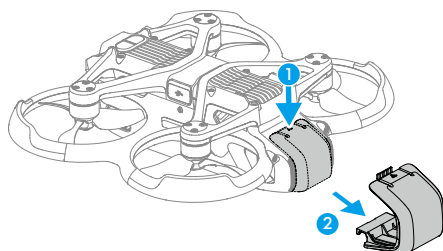
<https://www.dji.com/avata-2/video>

機体の準備

すべてのインテリジェント フライトバッテリーは、安全のためにハイバネーション モードで出荷されています。初めて使用する前に、充電してバッテリーをアクティベートしてください。USB充電器を機体のUSB-Cポートに接続して充電します。バッテリーは充電を開始すると有効になります。



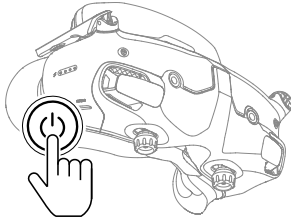
ジンバル プロテクターを取り外します。



-
- ☀
- DJI 65W USB-C充電器または30 W以上の充電出力を持つその他のUSB充電器の使用をお勧めします。
 - 機体を使用しないときは、ジンバルを保護するためにジンバル プロテクターを取り付けておくことをお勧めします。カメラが正面を向き、水平になるように調整し、ジンバル プロテクターを取り付け、固定されていることを確認します。
-
- ⚠
- 初めて使用する前に、ジンバルカメラの保護シールを剥がしてください。
 - 機体の電源を入れる前に、必ずジンバル プロテクターを取り外してください。この手順に従わないと、自己診断テストの際に機体に影響が出る可能性があります。
-

DJI Goggles 3の準備

ゴーグルの電源を入れます



電源ボタンを1回押すと、バッテリー残量を確認できます。

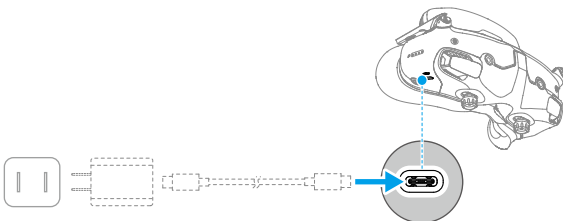
ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると、ゴーグルの電源がオンまたはオフになります。

バッテリー残量LEDは、充電中および使用中に残量を表示します：

















- LED点灯
- ◐ LED点滅
- LED消灯


LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
●	●	●	●	89～100%
●	●	●	◐	76～88%
●	●	●	○	64～75%
●	●	◐	○	51～63%
●	●	○	○	39～50%
●	◐	○	○	26～38%
●	○	○	○	14～25%
◐	○	○	○	1～13%

バッテリー残量が少ない場合は、USB充電器を使用して充電することをお勧めします。




下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています：

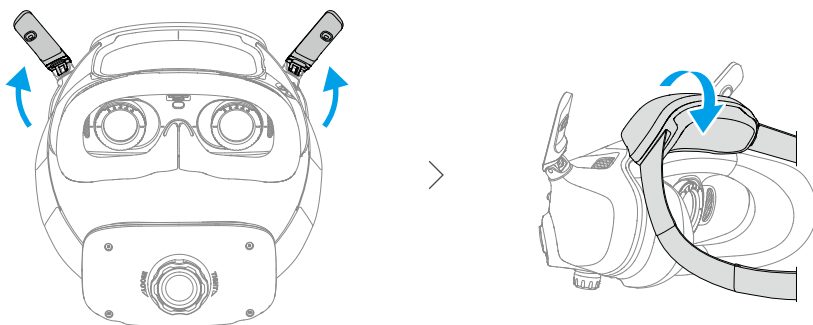
LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
				1～50%
				51～75%
				76～99%
				100%

 ・ USB-Cポートの仕様：USB 2.0 (480 Mbps)最大入力電力は9V/3Aです。

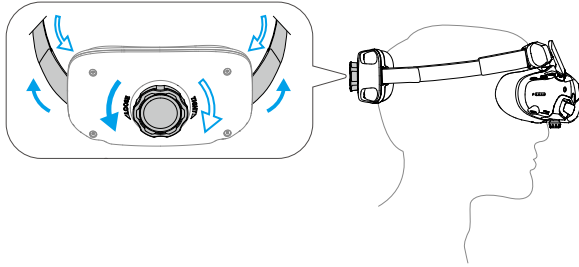
ゴーグルの装着

-  ・ ヘッドバンドにバッテリーワイヤーが埋め込まれています。ワイヤーが損傷しないように、ヘッドバンドを強く引っ張らないでください。
- ・ ゴーグルを使用していない時は、損傷を防ぐために、アンテナを折りたたんでください。
 - ・ 鋭利な物で、フォームパッド、追加の額パッド、バッテリー収納部の柔らかい面を破ったり、引っかいたりしないでください。
 - ・ 追加の額パッドを無理に曲げないでください。
 - ・ 部品の損傷を回避するため、ヘッドバンド調整ノブや視度調整ノブを無理に回転させないでください。

1. アンテナを展開します。
2. 額パッドを最も低い位置まで下方に調整します。



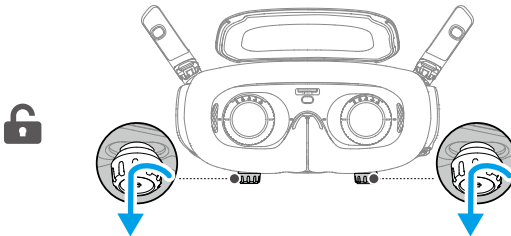
3. デバイスの電源を入れたら、ゴーグルを装着します。
4. バッテリー収納部のヘッドバンド調整ノブを回して、ヘッドバンドの長さを調整します。ヘッドバンドを締めるには時計回りに、ヘッドバンドを緩めるには反時計回りに回します。ゴーグルのずり落ちを回避するため、バッテリー収納部が後頭部の上部になるように装着することをお勧めします。



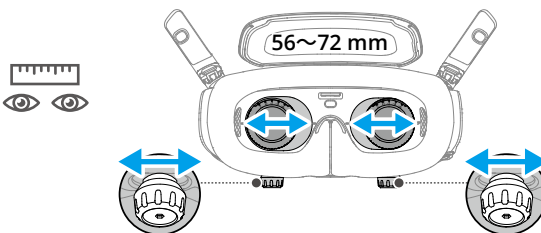
クリアな視界を得るには

視力が $-6.0\text{ D}\sim+2.0\text{ D}$ の範囲にある場合は、ゴーグル下部のノブを回転させて視度を調整します。回転すると、ゴーグル内の画面に視度値が表示されます。

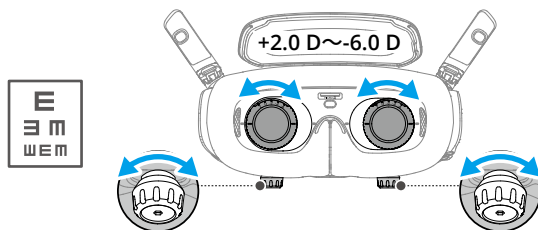
1. 両方のノブを、図で示す方向に回してロック解除します。ロック解除されると、ノブが飛び出します。



2. 左右にスライドすると、適切な配置で映像が見れるようにレンズ間の距離が調節されます。

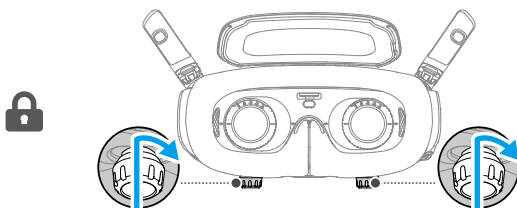


3. ノブをゆっくり回すと、視度が調整されます。対応調整範囲は、 $-6.0\text{ D}\sim+2.0\text{ D}$ です。



- ☀️
- 本ゴーグルは、乱視矯正に対応していません。乱視矯正が必要な場合、またはゴーグルの視度が合わない場合は、別途レンズを購入し、付属の矯正レンズフレームを使用してゴーグルに取り付けることができます。詳しくは「矯正レンズの使用」セクションを参照してください。
 - 最初に視度を調整するときには、実際に使用しているメガネの視度よりも少しだけ弱い視度に調整することをおすすめします。目が順応するまで十分な時間を取り、クリアな視界を得るまで、視度を繰り返し調整してください。目の疲れを避けるため、実際に使用しているメガネの視度より強い視度値で使用しないでください。

4. クリアな視界を得られたら、ノブを押し込み、図で示す方向に回すと、レンズの位置と視度がロックされます。

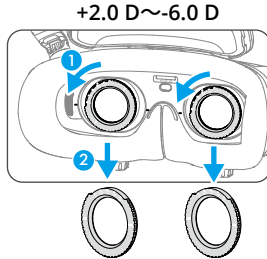


矯正レンズの使用

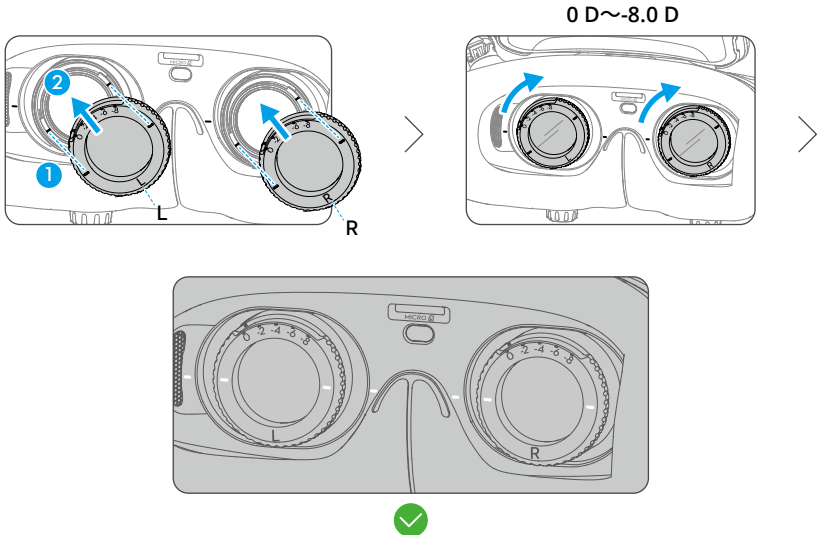
DJI Goggles 3は $-6.0\text{ D}\sim+2.0\text{ D}$ までの視度調整に対応しています。

視力が $-6.0\text{ D}\sim-8.0\text{ D}$ の範囲にある場合は、付属の -2.0 D 矯正レンズを取り付けることができます。

1. 図のように反時計回りに回転させ、ゴーグルから元のレンズフレームを取り外します。



2. 2.0 D矯正レンズを取り外し、保護フィルムを剥がします。底面のLとRのマークで左右のレンズを見分けられます。
3. 矯正レンズフレームの左右にある位置決めマークと、ゴーグルレンズフレームの内円にあるマークを合わせます。矯正レンズを押し下げて取り付け、矯正レンズフレームのマークとゴーグルレンズフレームのマークが合うまで時計回りに回転させます。



4. 必要に応じて、ゴーグルの視度を調整シノブをロックします。

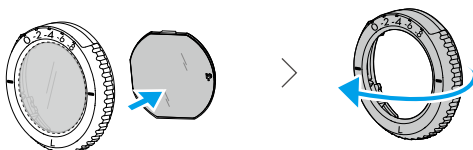
⚠️ ・-2.0 D矯正レンズ取り付け後、画面に表示される視度値は実際の視度値ではありません。
実際の視度値は、画面上の視度値と-2.0 Dの合計です。

矯正レンズの購入と取り付け

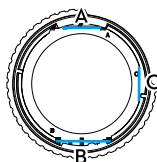
乱視矯正が必要な場合や、ゴーグルの視度がニーズに合わない場合は、適切なレンズを購入し、矯正レンズフレームを使用して取り付けることができます。

- ⚠️ ・レンズを購入する際は、-2.0 D矯正レンズ一式（フレームとレンズ一組）を専門の眼鏡店に持参し、レンズの形状、サイズ、乱視軸、縁の厚さ（< 1.8 mm）が矯正レンズフレームの取り付け条件を満たしていることを確認してください。

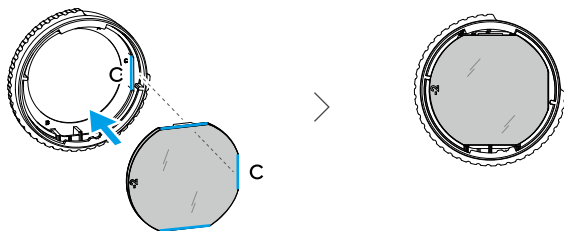
1. フレームから-2.0 Dレンズを押して取り外します。フレームを裏返します。



2. フレーム内の最短カットエッジ (c) を特定します。



3. 購入したレンズを取り外し、最短のカットエッジも確認します。
4. 左右のレンズと対応するフレームを見分けるようにしてください。最短カットエッジを合わせ、レンズの凹面が目に向くようにレンズをフレームに取り付けます。



5. レンズが正しい方法で取り付けられ、傾いていないことを確認します。レンズクリーニングクロスでレンズを拭いて、指紋や埃を拭き取ってください。
6. ゴーグルに矯正レンズを取り付けます。

7. 必要に応じて、ゴーグルの視度を調整しノブをロックします。

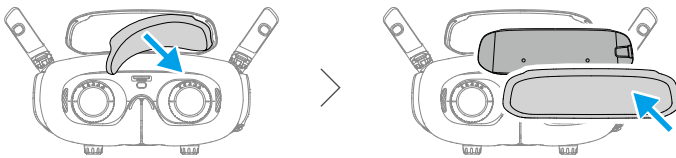
- ☀️ • 通常-9.0 Dの眼鏡をかけている場合は、-3.0 Dのレンズを購入し、ゴーグルの視度を-6.0 Dに調整することができます。これにより、セルフプリペアレンスの取り付け後の視度値は-9.0 Dとなります。

追加の額パッドの使用

矯正レンズを取り付けると、レンズと目の間の距離が縮まり、まつ毛がレンズに接触することがあります。違和感を感じたら、追加の額パッドを取り付けてください。

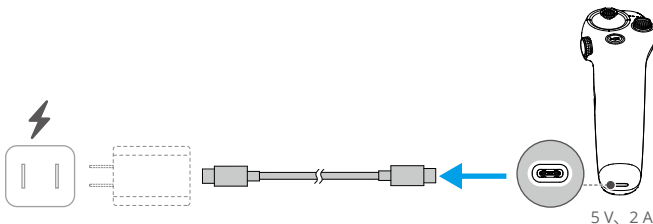


1. 元の額パッドを剥がします。
2. 追加の額パッドを取り付け、その上に元の額パッドを取り付けます。



DJI RC Motion 3の準備

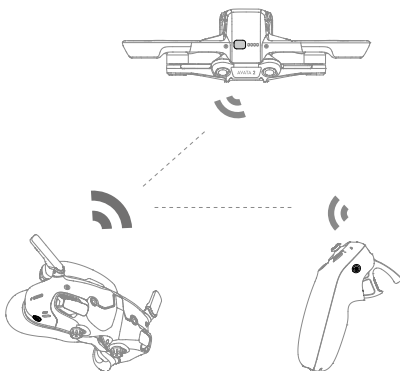
電源ボタンを1回押すと、バッテリー残量を確認できます。バッテリー残量が低下している場合、使用前に充電してください。



リンク作業

機体、ゴーグル、モーションコントローラーをコンボで一緒に購入した場合は、すでにリンクされています。別々に購入した場合には以下の手順に従って機器をリンクさせてください。

リンクさせて電源を入れる前に、機体で使用する機器がDJI ASSISTANT™ 2（一般向けドローン用）ソフトウェアを介して最新のファームウェアバージョンに更新されていることを確認してください。



1. 機体とゴーグルをリンクさせます：



- a. 機体の電源ボタンをピーブ音が1回鳴り、バッテリー残量LEDが順番に点滅し始めるまで長押しします。
- b. ゴーグルの電源ボタンをゴーグルのがピーブ音が鳴り続け、バッテリー残量LEDが順番に点滅し始めるまで長押しします。
- c. リンクが完了すると、機体のバッテリー残量LEDが点灯してバッテリー残量が表示されます。ゴーグルのピーブ音が止まり、映像伝送が正常に表示できるようになります。

2. ゴーグルとモーションコントローラーをリンクさせます：



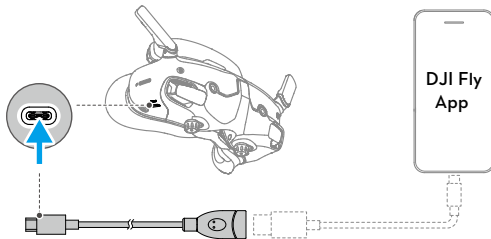
- ゴーグルの電源ボタンをゴーグルのがビープ音が鳴り続け、バッテリー残量LEDが順番に点滅し始めるまで長押しします。
- ビープ音が鳴り続け、バッテリー残量LEDが順番に点滅し始めるまで、モーションコントローラーの電源ボタンを長押しします。
- リンク作業が正常に終了すると、ゴーグルとモーションコントローラーのビープ音は止まり、両方のバッテリー残量LEDが点灯してバッテリー残量が表示されます。

- ☀️
- リンクは、機器が機体から0.5 m以内にある状態で行ってください。
 - 機器のリンクに失敗した場合は、機器を再起動してください。ゴーグルをモバイルデバイスに接続し、DJI Flyアプリを起動し、[接続ガイド]を選択し、画面上の指示に従ってリンク作業を行います。

- ⚠️
- 飛行中、機体は1台の送信機デバイスでのみ制御できます。機体が複数の送信機デバイスとリンクされている場合には、飛行前に他の送信機デバイスの電源を切っておいてください。

アクティベーション

DJI Avata 2は必ず最初使用前にアクティベーションしてください。機体、ゴーグル、送信機デバイスの電源を入れた後にすべてのデバイスがリンクされていることを確認してください。ゴーグルのUSB-Cポートとモバイル端末を接続し、DJI Flyを起動します。その後、プロンプトに従ってアクティベーションを行います。アクティベーションにはインターネット接続が必要です。自動紐づけに失敗した場合は、DJI Flyの画面上の指示に従って機体とゴーグルを紐づけしてください。保証サービスを受けるには、機体とゴーグルを紐づけする必要があります。



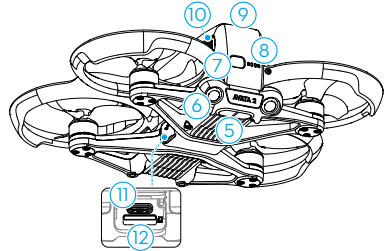
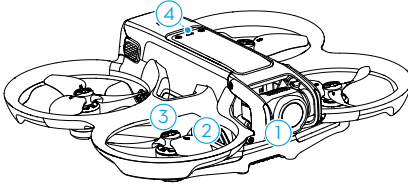
- ☀️
- 本ゴーグルは標準USB-CプロトコルとMFi認証済みLightningケーブルのみに対応しています。標準ケーブルではないケーブルには、対応していません。接続してもデバイスが反応しない場合、別のデータケーブルを使用してみてください。

ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、DJI Flyにプロンプトが表示されます。最適なユーザーエクスペリエンスを得るために、プロンプトが表示されたら、ファームウェアを更新してください。詳細は「ファームウェアの更新」を参照してください。

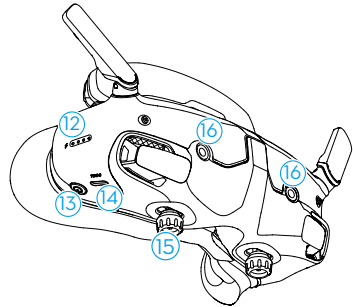
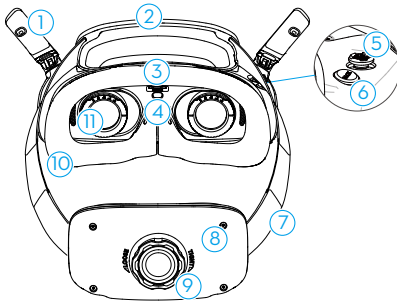
概要

機体



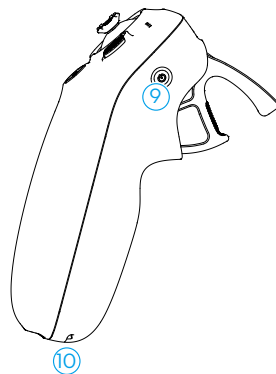
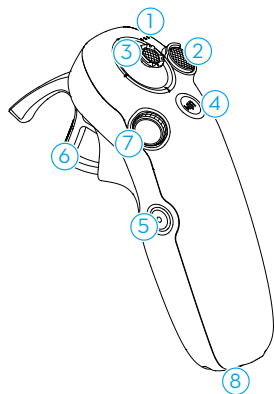
1. ジンバルとカメラ
2. プロペラ
3. モーター
4. 機体ステータスインジケータ
5. 赤外線検知システム
6. 前後方ビジョンシステム
7. 電源ボタン
8. バッテリー残量LED
9. インテリジェントフライトバッテリー
10. バッテリーバックル
11. USB-Cポート
12. microSDカードスロット

DJI Goggles 3



1. アンテナ
2. 額パッド
3. microSDカードスロット
4. 近接センサー
ゴーグルの装着を検知し、自動的に画面のオン/オフを行います。
5. 5Dボタン
6. 戻るボタン
7. ヘッドバンド
8. バッテリー収納部
9. ヘッドバンド調整ノブ
10. フォームパッド
11. レンズ
12. バッテリー残量LED
13. 電源ボタン/リンクボタン
14. USB-Cポート
15. IPD (瞳孔間距離) スライダー/度数調整ノブ (以下、「ノブ」と表記)
16. カメラ

DJI RC Motion 3



- | | |
|----------------|--------------|
| 1. バッテリー残量LED | 6. アクセル |
| 2. ロックボタン | 7. ダイヤル |
| 3. ジョイスティック | 8. USB-Cポート |
| 4. モードボタン | 9. 電源ボタン |
| 5. シャッター／録画ボタン | 10. ストラップ取付口 |

飛行安全性

飛行安全性

飛行前の準備が完了したら、飛行技術を磨き、安全飛行の練習を行っておくことをお勧めします。以下の飛行要件と制限に従って、飛行に適したエリアを選択してください。飛行中は、現地の法律および規制を順守してください。本製品を安全に使用するために、飛行前に安全ガイドラインをお読みください。

飛行制限

GEO (Geospatial Environment Online) システム

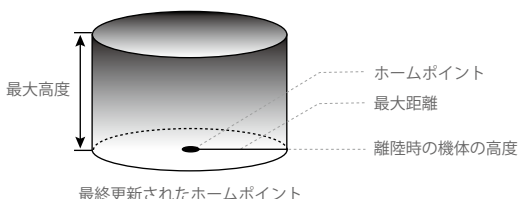
DJI GEO (Geospatial Environment Online) システムは、飛行の安全性と制限の更新に関する情報をリアルタイムで提供する、制限空域でのUAVの飛行を防ぐグローバル情報システムです。例外的な状況では、制限エリアのロック解除を行い、飛行を許可することができます。その前に、ユーザーは目的の飛行地域の現在の制限レベルに基づいてロック解除の要請を提出する必要があります。GEOシステムは、現地の法律や規制に完全に準拠していない場合があります。ご自身の飛行の安全性に責任を負い、制限エリアでの飛行のロック解除を要求する前に、関連する法的および規制要件について地方自治体に相談する必要があります。GEOシステムについての詳細は、次のサイト <https://fly-safe.dji.com> をご覧ください。

飛行制限

安全上の理由から、初期状態では飛行制限が有効になっており、ユーザーが機体を安全に使用できるようにしています。ユーザーは飛行制限の高度と距離を設定できます。GNSSが利用可能な場合は、高度制限、距離制限、GEO区域の機能が同時に働き、飛行安全性を管理します。GNSSが利用できない場合は、高度のみを制限できます。

飛行高度と距離制限

最大高度は機体の飛行高度を制限し、最大距離はホームポイント周辺の飛行半径を制限します。飛行の安全性向上のため、ゴーグルを使用してこれらの制限を設定できます。



強いGNSS信号

	飛行制限	ゴーグルのプロンプト
最大高度	飛行高度はプリセット高度より低くなければなりません。	最大高度に達しました。
最大距離	機体からホームポイントまでの直線距離は、ゴーグルで設定された最大飛行距離を超えることはできません。	最大飛行距離に到達しました。

弱いGNSS信号

	飛行制限	ゴーグルのプロンプト
最大高度	<ul style="list-style-type: none"> 十分に明るい場合、高度は離陸地点から50 mの高さに制限されます。 明るさが不十分で赤外線検知システムが動作している場合、高度は地表3 mの高度に制限されます。 明るさが不十分で赤外線検知システムが動作していない場合、高度は離陸地点から50 mの高さに制限されます。 	最大高度に達しました。
最大距離	制限なし	

- ⚠️ ・機体の電源を入れるたびに、GNSS信号が一度でも強い（GNSS信号表示が白または黄色）状態になると3 mまたは50 mの高度制限は自動的に解除され、その後GNSS信号が弱くなくても制限は有効になりません。
- 機体が慣性によって設定された飛行範囲を超えて飛行した場合、ユーザーは機体を操縦することはできませんが、それ以上遠くに飛ばすことはできません。機体が高度制限を超えて飛行した場合、高度制限以下では5 m/sで降下します。機体が高度制限区域に入ると、100秒のカウントダウンの後、着陸を開始します。
 - 安全上の理由から、空港、高速道路、鉄道の駅、鉄道の線路、市街地、その他の要注意エリアの近くで、機体を飛行させないでください。機体は、常に目視内（VLOS）でのみ飛行させてください。

GEO区域


DJI GEOシステムは、安全な飛行場所を指定し、個々の飛行のリスクレベルと安全に関する注意、および制限空域情報を提供します。すべての飛行制限エリアはGEO区域と呼ばれ、さらに制限区域、承認区域、警告区域、強化警告区域、高度制限区域に分けられます。DJI Flyでは、これらの情報をリアルタイムで表示できます。GEO区域には、空港、大規模なイベントの会場、公衆衛生上の緊急事態（山火事など）が発生した地域、原子力発電所、刑務所、国有財産、軍事施設がありますが、これらに限定されません。デフォルトでは、GEOシステムは、安全またはセキュリティ上の懸念につながる可能性のある区域への離陸または区域内での飛行を制限します。DJI公式サイト：<https://fly-safe.dji.com/nfz/nfz-query>には、世界中のGEO区域に関する包括的な情報を含むGEO区域のマップがあります。

GEO区域のロック解除

様々なユーザーのニーズを満たすために、DJIでは2つのロック解除モードを用意しています。セルフロック解除およびカスタムロック解除。DJI Fly Safeのウェブサイトから申請できます。

セルフロック解除は承認区域をロック解除することを目的としています。セルフロック解除を完了するには、安全飛行に関するDJIのウェブサイト<https://fly-safe.dji.com> からロック解除申請を送信する必要があります。ロック解除申請が認証されると、DJI Flyアプリからライセンスロック解除を同期できます。該当区域のロックを解除するには、認証された承認区域内で機体を直接離陸または飛行して、DJI Flyのプロンプトに従って該当区域のロックを解除できます。

カスタムロック解除は、特別な要件を持つユーザー向けに用意されています。ユーザーによって定義されたカスタム飛行エリアを指定し、様々なユーザーのニーズにあわせた個別の飛行許可書を提供します。このロック解除オプションは、すべての国と地域で利用でき、安全飛行に関するDJIのウェブサイト <https://www.dji.com/flysafe> から申請できます。

-
-  ・飛行の安全を確保するため、機体はロック解除区域に入った後、その区域から外に出ることはできません。ホームポイントがロック解除区域外にある場合、機体はホームに帰還できません。
-

飛行環境の条件

1. 風速10.7 m/s超のとき、雪、雷、稲妻、雨、霧などの悪天候時には機体を操作しないでください。
2. 飛行は周囲が開けた屋外でのみ行ってください。高い建物や巨大な金属製の建造物は、機体に搭載されているコンパスやGNSSシステムの精度に影響を及ぼす場合があります。そのため、バルコニーや、建物から15 m以内の場所からは離陸させないでください。飛行中は建物から15 m以上の距離を保ってください。離陸後、飛行を継続する前に、ホームポイントが更新されたというメッセージが表示されたことを確認してください。機体が建物の近くで離陸した場合、ホームポイントの精度は保証されません。この場合、自動RTH中、機体の現在位置に細心の注意を払ってください。機体がホームポイントに接近したら、自動RTHをキャンセルし、機体を手動でコントロールして、適切な場所に機体を着陸させることを推奨します。
3. GNSS信号が弱い場合は、周囲が明るく視界が良好な環境で機体を飛ばしてください。ビジョンシステムは、周囲の明るさが不十分な場合、正しく機能しない場合があります。機体は日中のみ飛行させてください。
4. 障害物、人混み、森林、および水域での飛行は避けてください（推奨高度は水面から少なくとも6 mです）。
5. 高レベルの電磁波を発する送電線、基地局、変電所、放送用電波塔などのあるエリアを避け、電磁干渉を最小限に抑えてください。
6. レーダー基地、マイクロ波中継局、移動通信基地局、ドローン妨害装置などの強力な電磁波干渉サイトから200 m以上の距離を保つようにしてください。
7. 高度5000 m超の高度で飛行する場合、機体とそのバッテリーの性能は制限されます。慎重に飛行してください。
8. 機体の制動距離は、飛行高度の影響を受けます。高度が高いほど、制動距離も長くなります。飛行高度が3000 mを超える場合、飛行の安全性を確保するため、垂直方向の制動距離を少なくとも20 m、水平方向の制動距離を25 m確保する必要があります。
9. 南極圏、北極圏で機体のGNSSを使用することはできません。代わりにビジョンシステムを使用してください。
10. 車や船などの動いている物体から離陸させないでください。
11. 単色（全体が同一色）の表面や、車の屋根など反射の強い表面から離陸させないでください。
12. 発火や爆発の危険性がある環境では、機体を操作しないでください。
13. 機体、ゴーグル、送信機デバイス、バッテリー、バッテリー充電器、バッテリー充電ハブは、乾いた環境で操作してください。
14. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐、塩水噴霧、菌類を伴う環境下では、機体、ゴーグル、送信機デバイス、バッテリー、バッテリー充電器、バッテリー充電ハブを使用しないでください。
15. 鳥の群れ付近で機体を操作しないでください。
16. バッテリー充電器は、湿った環境では使用しないでください。

責任ある機体操作

深刻な怪我や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 麻酔、飲酒、服薬などの影響がないこと、めまい、疲労、吐き気などの症状がなく、機体を安全に操作する能力があることを確認してください。
2. 着陸した場合、まず機体のスイッチを切ってから送信機の電源を切ります。
3. 建物、人体、動物に危険なペイロードを落下させたり、それらに向けて打ち上げ、発射したりしないでください。人的障害や物的損害が生じるおそれがあります。
4. 墜落した機体、または偶発的な損傷を受けた機体、または状態の悪い機体を使用しないでください。
5. 必ずトレーニングを十分に行い、緊急時または事故発生時のための緊急時対応計画を作成してください。
6. 必ず飛行計画を立ててください。機体を無謀に飛行させないでください。
7. カメラの使用時には、他者のプライバシーを尊重してください。現地のプライバシー法規制と道徳的規準を必ず順守してください。
8. 一般的な個人使用以外の理由で本製品を使用しないでください。
9. 本製品を、スパイ行為、軍事運用、不正捜査など、違法または不適切な目的のために使用しないでください。
10. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫、または他者のプライバシーの侵害や肖像権の侵害など法的権利を侵す行為に使用しないでください。
11. 他人の私有地に侵入しないでください。

フライト前チェックリスト

1. ゴーグル、送信機、インテリジェント フライトバッテリー、モバイル端末が完全に充電されていることを確認してください。
2. プロペラが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。
3. インテリジェント フライトバッテリーが適切にしっかりと接続されていることを確認してください。
4. USB-CポートとmicroSDカードスロットの防塵カバーがしっかりと閉まっていることを確認してください。
5. ジンバル プロテクターが取り外されていることを確認してください。すべてのカメラレンズとセンサーに汚れがないことを確認してください。
6. 機体、送信機、ジンバル、カメラが正常に機能することを確認してください。
7. ゴーグルのアンテナが展開されていることを確認してください。
8. ゴーグルが正常に機能し動画伝送を表示していることを確認してください。
9. 最大飛行高度、最大飛行距離、RTH高度のすべてが現地の法律や規制に従って適切に設定されていることを確認してください。
10. DJIの純正部品またはDJIが認定する部品のみをご使用ください。認定されていない部品を使用すると、システムに不具合が発生し、飛行安全性が損なわれるおそれがあります。
11. リモートIDが最新で機能しているかどうかを確認します。
12. 人口密集地域の上空を飛行しないでください。

飛行操作

飛行操作

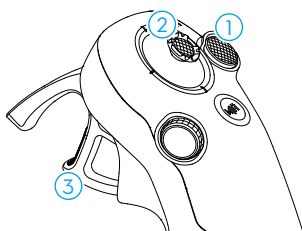
本セクションでは、機体のさまざまな操作方法について説明します。以下の手順は、ユーザーが機体を適切に操作するのに役立ちます。

1. 見晴らしのよい平らな場所に、機体の後面をユーザーの方を向くようにして機体を置きます。
2. ゴーグル、送信機、機体の電源を入れます。
3. 機体ステータスインジケータがゆっくりと緑色に点滅するまで待ち、ゴーグルを装着します。
4. モーターを始動します。
5. ゴーグルの飛行ライブビューをチェックして、警告プロンプトがなく、GNSS信号が強いことを確認します。
6. ロックボタンを2回押すと機体のモーターが起動し、長押しすると機体が離陸します。機体は約1.2 mまで上昇し、ホバリングします。
7. 機体がホバリング中にロックボタンを長押しすると、機体が自動着陸してモーターが停止します。
8. 機体、ゴーグル、送信機の電源を切ります。

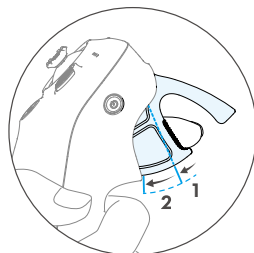
基本的な飛行操作

- ☀️ • 初めて飛行する前に、ゴーグル内のチュートリアルガイドを視聴することをお勧めします。[設定] > [制御] > [モーションコントローラー] > [飛行制御] > [モーションコントローラーの説明]の順に進みます。


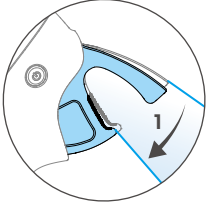
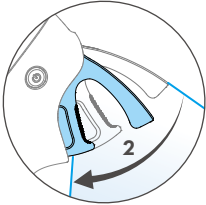
DJI RC Motion 3のロックボタン、ジョイスティック、アクセルを使用して機体を操作します。



- ① ロックボタンを使用して、機体の離陸、着陸、およびブレーキを制御します。
- ② ジョイスティックを動かすと、機体の上昇、下降、水平方向の左または右に動きます*。
- ③ アクセルを操作するときの圧力は2段階あります。最初と2番目の停止位置の中間の位置で軽く引くと、一時停止をはっきりと感じることができます。アクセルをさまざまな停止位置で操作し、機体のさまざまな操作を制御します。



* 簡単ACROが有効でない場合、または簡単ACRO操作でスライドが選択されている場合。

	<p>アクセルを操作しないと、機体はホバリングします。</p>
	<p>アクセルを最初の停止位置まで軽く引くと、モーションコントローラーを左右に垂直に傾けて機体の向きを調整することができます。</p> <p>このとき、機体が前方に飛行しないことに注意してください。</p>
	<p>アクセルを2番目の停止位置まで引くと、機体がゴーグルの円の方向に飛行します。</p>

離陸、制動、着陸

<p>離陸</p>	<p>ロックボタンを2回押すと機体のモーターが起動し、もう一度ボタンを長押しすると機体が離陸します。機体は約1.2 mまで上昇し、ホバリングします。</p>
<p>制動</p>	<p>飛行中にロックボタンを押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。再度押すと飛行制御を再開します。</p>
<p>着陸</p>	<p>機体がホバリング中にロックボタンを長押しすると、機体が自動着陸してモーターが停止します。</p>

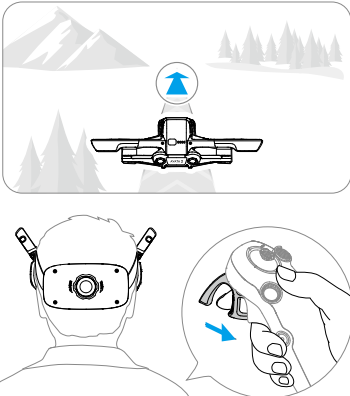
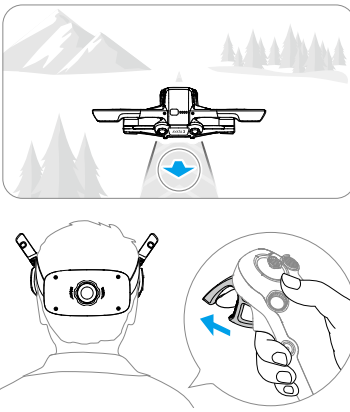


- ロックボタンを2回押して機体のモーターが起動したら、ジョイスティックをゆっくりと上に倒して機体を離陸させます。
- 簡単ACROが無効の場合、機体が着陸位置まで飛行したら、ジョイスティックを軽く下方に押しと着陸します。着陸後、ジョイスティックを下に倒した状態のままにすると、モーターが停止します。

- ⚠️
- 飛行中に緊急事態（衝突や機体の制御不能など）が発生した場合、ロックボタンを4回押すと飛行中のモーター停止が作動し、機体のモーターを直ちに停止できます。飛行中モーター停止機能を使用すると機体が墜落します。慎重に操作してください。
 - モーションコントローラー使用時の飛行安全性を確保するため、ゴーグルを操作する前にロックボタンを一度押してブレーキをかけて、ホバリングさせてください。これを行わない場合、安全性のリスクが高まり、機体が制御できなくなったり、周囲の人の怪我を誘発する要因となります。

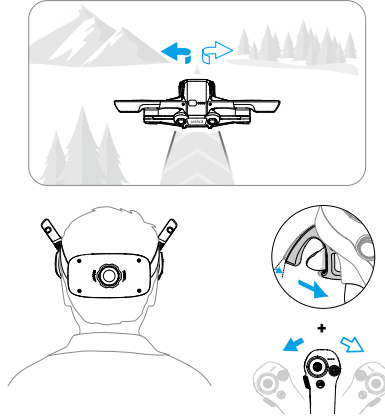
前方と後方への飛行

モーションコントローラーのアクセルを押すか、または押し込むと、前方または後方に飛行します。アクセルを押すか、または押し込むと、より大きな圧力がかけられます。離すと停止して、ホバリングします。

飛行軌道	備考
	<p>アクセルを2番目の停止位置まで引くと、機体がゴーグルの円の方向に飛行します。</p>
	<p>アクセルを前方に押すと、機体は後方に飛行します。</p>

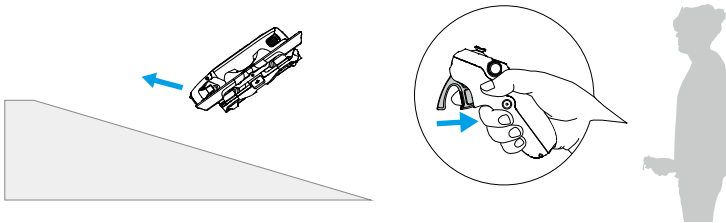
機体の向き調整

アクセルを軽く最初の停止位置まで引くと同時に、モーションコントローラーの上部をいずれかの方向に傾けると、機体が回転します。モーションコントローラーの傾斜角が大きくなるほど、機体の回転は速くなります。ゴーグル内の画面に表示されるサークル（円）が左右に動き、それに応じて飛行ライブビューも変化します。

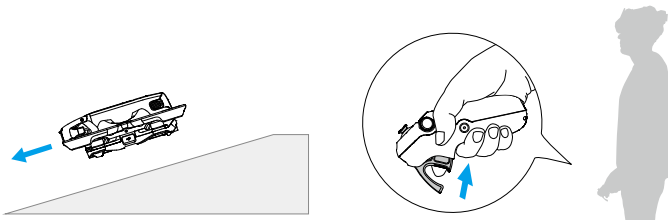


機体を斜めに傾けて上昇または下降させる

機体を上向きに飛行させる必要がある場合は、アクセルを 2 番目の停止位置まで引くと同時に、モーションコントローラーを上方に傾けます。

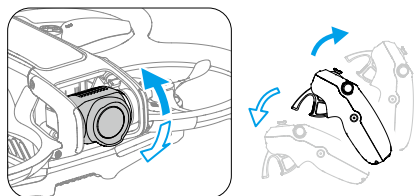


機体を下向きに飛行させる必要がある場合は、アクセルを 2 番目の停止位置まで引くと同時に、モーションコントローラーを下方に傾けます。



ジンバルとカメラの操作

ジンバルのチルトを制御するにはモーションコントローラーを上下に傾けます。ジンバルのチルトはモーションコントローラーの傾きに応じて変化し、モーションコントローラーの向きと常に一致します。ゴーグル内のサークルは上下に動き、それに応じて飛行ライブビューも変化します。

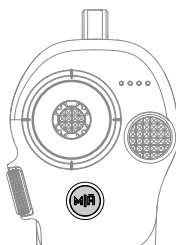


フライトモードの切り替え


モーションコントローラーには、標準モードとスポーツモードの2種類のモードがあります。デフォルトでは、標準モードが選択されています。

モードボタンを1回押すと、標準モードとスポーツモードが切り替わります。機体の飛行速度が表示されます。スポーツモードで飛行中は、機体の飛行速度が速くなります。モーションコントローラーの操作論理は、スポーツモードでも標準モードと同じです。


飛行モードの違いについては、「フライトモード」セクションを参照してください。

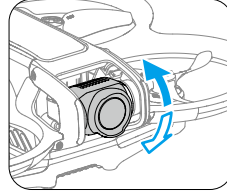
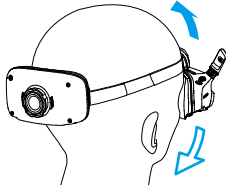
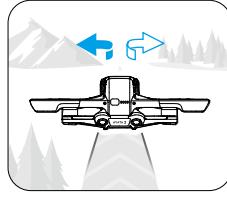
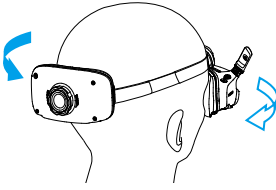


ヘッドトラッキング

ヘッドトラッキングが有効な場合、頭部の動きにより、機体の水平方向とジンバルのチルトを制御できます。飛行ライブビューからショートカットメニューを開き、クイックコントロールメニューにアクセスし、をクリックするとヘッドトラッキングが有効になります。

ヘッドトラッキングモードに入ると、モーションコントローラーはジンバルチルトを制御できなくなり、機体を介した制御のみが有効になります。アクセルを操作しなくても、モーションコントローラーを傾げることで機体の向きを制御できます。

 ・ゴーグルを外すとヘッドトラッキングはできなくなります。

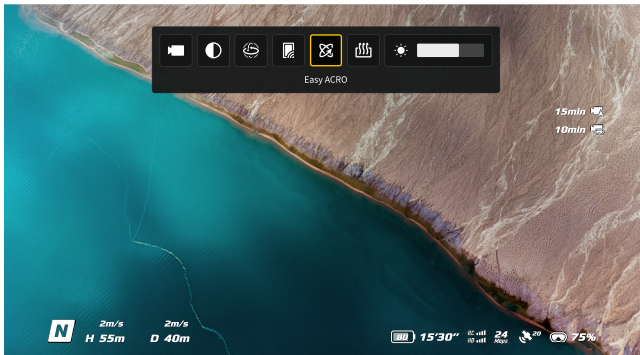


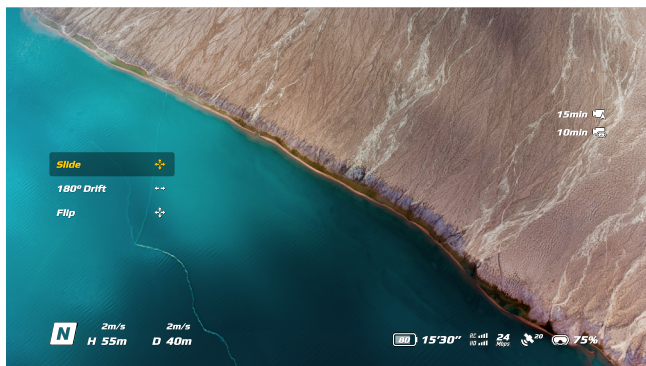
簡単ACRO

モーションコントローラーを使用して、前方フリップ、後方フリップ、ロール、180° ドリフトなどの簡単ACRO動作を実行します。

⚠️ • 飛行安全性のため、簡単ACRO動作はオープンな環境で実行してください。

1. ショートカットメニューを開き、簡単ACROを選択します。機体は簡単ACROモードに入ります。簡単ACROには、スライド、180° ドリフト、フリップの3つの動作があります。ゴーグルのライブビューの左側に選択した動作が表示されます。



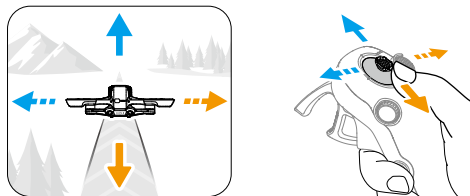


2. モーションコントローラーのダイヤルを使用して、簡単ACRO動作を切り替えます。
3. 簡単ACROが有効になっている場合、ジョイスティックを動かして、以下のようなさまざまな簡単ACRO動作を実行します。

スライド

ジョイスティックを上下に押すと、機体の上昇または下降します。

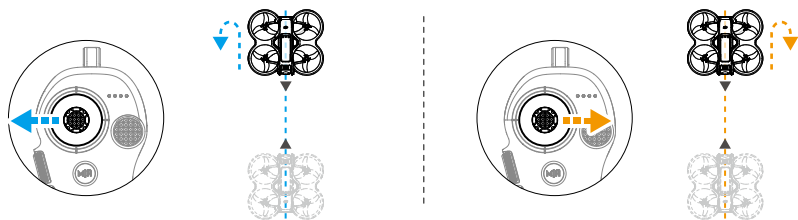
ジョイスティックを左右に押すと、機体が水平方向の左右に動きます。



180° ドリフト

ジョイスティックを左右に押すと、機体を左右に180° ドリフトさせることができます。

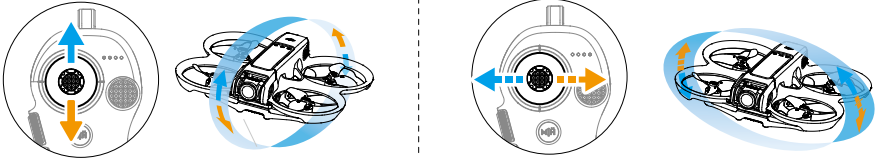
この動作モードでは、ジョイスティックを上下に押しても機体は反応しません。



フリップ

ジョイスティックを上下に押すと、機体が前方または後方フリップします。

ジョイスティックを左右に押すと、機体が左右に1回転します。



☹️ • 以下の状況では、簡単ACROを有効にすることはできません：

- a. 録画中
- b. ヘッドトラッキングが有効な場合
- c. FPV 送信機 3 と併用する場合。

⚠️ • 周囲に注意し、近くに障害物がないことを確認してから、簡単ACROの動作を実行してください。

• 簡単ACROは以下の状況では使用できません：

- a. 機体が離陸中、ホバリング中、着陸中、または帰還中
- b. 機体がスポーツモードになっている
- c. 機体のバッテリー残量が25%未満
- d. 機体の高度が1.5 m未満
- e. 強風（風速10 m/s超）の中で飛行中
- f. 測位性能不良（GNSS信号が弱い）
- g. 機体が制限区域や高度制限区域のバッファゾーンにいる、または最大飛行距離に近づいている。

• 機体の姿勢角が大きくなると（高速旋回時や急加速・急減速時など）、機体の高度も上げる必要があり、そうしなければ簡単ACROは使用できません。

録画に関する提案とヒント

1. フライト前チェックリストの目的は、操縦者が安全に飛行し、飛行中に安全に動画を撮影できるようにすることにあります。飛行前は、毎回フライト前のチェックリストをすべて確認してください。
2. 写真や動画を撮影するときは、標準モードを使用することをお勧めします。
3. 雨や風の強い日などの悪天候時には飛行させないでください。
4. 最も好みにあったカメラ設定を選択してください。
5. 飛行ルートと撮影シーンを想定し飛行テストを実施してください。
6. 飛行中は、アクセルの圧力を制御し、機体がスムーズで安定して動くようにしてください。

機体

機体

フライトモード

機体は以下のフライトモードに対応しています。フライトモードは、モーションコントローラーのモードボタンで標準モードとスポーツモードに切り替えることができます。

標準モード：このモードでは、機体は正確にホバリングし、安定した飛行が可能で、ほとんどの飛行シナリオに適しています。

スポーツモード：スポーツモードでは、機体の最高水平飛行速度が上昇します。

マニュアルモード：操縦性の自由度を究極まで高めたクラシックなFPV機体制御モードです。マニュアルモードでは、正確なホバリングや自動ブレーキなどのすべての飛行支援機能が無効になり、熟練した操縦スキルが要求されます。

標準モードまたはスポーツモードでは、下方ビジョンシステムが使用できないか無効になっている場合、GNSS信号が弱い場合、またはコンパスが干渉を受けた場合、機体は水平ドリフトを起こし、RTHは使用できなくなります。この場合、機体はホバリングも自動ブレーキもできません。事故を防ぐためには、できるだけ速やかに機体を着陸させる必要があります。狭いスペース、GNSS信号が弱い場所、または照明が十分でないエリアでの飛行は避けてください。



- 安全上の理由から、初飛行の機体はデフォルトでビギナーモードで飛行します。初心者モードでは、機体の最高飛行速度は1 m/sです。ビギナーモードを終了するには、ゴーグルのメニューを開き、[設定] > [制御] > [ビギナーモード] に進みます。
- マニュアルモードは、DJI FPV 送信機 3を使用して機体进行操作する場合にのみ対応しています。スロットルスティックの抵抗も調整できません。DJI RC Motion 3はマニュアルモードに対応していません。マニュアルモードの詳細については、DJI FPV 送信機 3ユーザーマニュアルを参照してください。

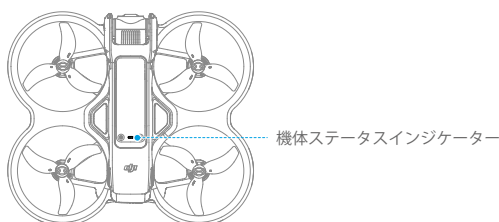


- スポーツモードまたは標準モードでの機体の上昇時と下降時は、無風状態の場合で、少なくとも10 mの制動距離が必要です。
- スポーツモードでは、機体の最高飛行速度と制動距離が著しく増加します。無風状態の場合、制動距離は少なくとも30 m必要です。
- スポーツモードでは、機体の応答性が著しく向上します。そのため、送信機の操作スティックをわずかに動かただけでも、機体は長距離を移動します。飛行中は必ず、十分な飛行スペースを確保するようにしてください。

- 機体の飛行高度が5 m未満の場合、または機体の周囲半径5 m以内に障害物がある場合、マニュアルモードを有効にする際は注意してください。マニュアルモードで機体を旋回させると、以下の場合に姿勢が不安定になることがあります。安定した飛行を確保するため、注意して機体を操作してください。
 - 高速で機体を旋回させる場合
 - 飛行高度が海拔3000メートルを超える場合
 - 飛行速度が13 m/sを超えるか、風速が7.9 m/sを超える場合。

機体ステータスインジケータ

機体の本体上部に機体ステータスインジケータがあります。



機体ステータスインジケータの説明

通常の状態

	赤色と黄色と緑色が交互に点滅	電源がオンになり、自己診断テストを実行
	緑色にゆっくり点滅	GNSSまたはビジョンシステムによる測位が有効
	黄色にゆっくり点滅	GNSSとビジョンシステムが無効
	紫色にゆっくり点滅	機体がマニュアルモードになっている

警告の状態

	黄色にすばやく点滅	送信機信号消失
	赤色にゆっくり点滅	離陸不可 (例: ローバッテリー*など) ^[1]
	赤色にすばやく点滅	重度のローバッテリー
	赤色に点滅	IMUエラー
	赤色に点灯	重大なエラー
	赤色と黄色に交互に点滅	コンパス キャリブレーションが必要

[1] ステータスインジケータが赤色にゆっくり点滅している間に機体が離陸できない場合は、ゴーグルに警告プロンプトが表示されます。

Return-to-Home (RTH：帰還)

Return-to-Home (RTH：帰還) 機能により、機体は最後に記録されたホームポイントまで自動的に飛行します。RTHは次の3つの方法のいずれかで起動します：ユーザーが積極的にRTHを起動したとき、機体のバッテリー残量が少ないとき、または送信機信号または動画伝送信号が失われたとき（フェールセーフRTHが起動します）。機体がホームポイントを正常に記録し、測位システムが正常に機能している場合、RTH機能が起動すると、機体は自動的に飛行して、ホームポイントに着陸します。

📖	GNSS	説明
ホームポイント	📍 10	<p>デフォルトのホームポイントとして記録されるのは、強いまたはやや強いGNSS信号（白いアイコンで表示）を機体が最初に受信した場所です。ホームポイントは、機体が強いまたはやや強い別のGNSS信号を受信しているときに限り、離陸時に更新できます。信号が弱い場合は、ホームポイントは更新されません。機体ステータスインジケーターが緑色に素早く点滅し、ホームポイントが更新されたことを確認するプロンプトがゴーグルに表示されます。</p> <p>飛行中はゴーグル内にHマークが表示されますが、これは最後に記録された機体のホームポイントの位置を示しています。</p>

警告

- ⚠️
- RTH中は、機体の周囲と上方の障害物を検知または回避することはできません。
 - GNSS信号が弱いまたは利用不可の場合、機体はホームポイントに戻れないことがあります。フェールセーフRTHに入った後に、GNSS信号が弱くなった、または利用不可になった場合、機体は自動的に降下して着陸します。
 - 各フライトの前にRTH高度の設定を確認してください。ゴーグルの [設定] > [安全] に進み、適切なRTH高度を設定してください。
 - GEO区域はRTHに影響します。RTH中に機体がGEO区域内を飛行したときにはホバリングします。
 - 風速が強すぎると、機体はホームポイントに戻ることができない場合があります。慎重に飛行してください。
 - 機体が障害物に囲まれた環境（高い建物の近くなど）を飛行している場合、またはGNSS信号が弱い場合、ホームポイントの位置が不正確になり、ゴーグルに表示される機体とホームポイント間の水平距離に大きな誤差が生じることがあります。慎重に飛行してください。

トリガー方法

ユーザーが積極的にRTHを起動する

モーションコントローラーのモードボタンを長押しすると、RTHが開始されます。機体は、最終更新されたホームポイントまで飛行して帰還します。機体がRTHを実行中に、ロックボタンを1回押すとRTHをキャンセルします。RTHを終了すると、機体を制御できるようになります。

機体のローバッテリー状態


バッテリー残量が低下し、ホームポイントまでしか飛行できなくなると、ゴーグルに警告プロンプトが表示され、プロンプトに従ってRTHが開始されます。RTHは送信機を使用してキャンセルすることができます。ローバッテリー警告が出た後にRTHをキャンセルすると、インテリジェントフライトバッテリーの残量不足で機体は安全に着陸できず、機体が墜落したり紛失したりするおそれがあります。

現在のバッテリー残量では、機体のいる高度から下降させることしかできない場合になると、自動で着陸します。自動着陸をキャンセルすることはできませんが、送信機を使用して着陸中の機体の水平方向の動きを制御することができます。

送信機または動画伝送信号の消失

送信機信号または動画伝送信号が失われた場合、信号消失動作がRTHに設定されていれば、機体は自動的にフェールセーフRTHを開始します。

機体は元の飛行ルートに沿って50 m後方に飛行し、次にRTH手順を実行します。元の飛行ルートに沿って後方に飛行しているときに信号が回復した場合、機体は直接RTH手順を実行します。

-
-  ・無線信号が失われた時の機体の対応方法は、ゴーグルで変更できます。設定で着陸またはホバリングが選択されている場合、機体はフェールセーフRTHを実行しません。
-

RTH手順

1. ホームポイントが記録されます。
2. RTHが起動します。
3. RTHを開始する際、RTH距離（機体とホームポイント間の水平距離）の違いによりRTH手順が異なります：
 - a. RTH距離が5 m未満の場合、機体は速やかに着陸します。
 - b. RTH距離が5 mを超え20 m未満の場合、現在の高度でホームポイントまで直線飛行します。
 - c. RTH距離が20 mより遠い場合、RTH高度まで上昇し、ホームポイントに戻ります。RTH高度が現在の高度より低い場合、機体は現在の高度でホームポイントに向かいます。
4. 機体はホームポイント上空に到達すると着陸を開始します。

着陸保護

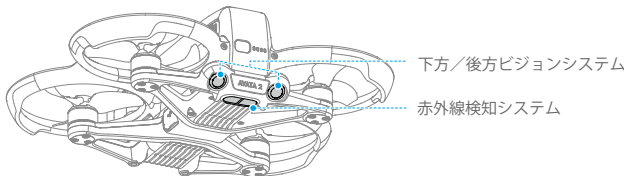
着陸保護機能はRTHと自動着陸中に有効になります。

1. 着陸保護中、地面が着陸に適していると機体が判断すると、慎重に着陸します。
2. 地面が着陸に適していないと判断された場合には、機体はその場でホバリングして、パイロットの確認を待ちます。
3. 着陸保護機能が作動しない場合、機体が地表0.25 mまで下降すると、ゴーグルが着陸プロンプトを表示します。モーションコントローラーのロックボタンを長押しすると機体に着陸します。

- ⚠
- 着陸保護は、着陸環境を判断する補助に過ぎません。安全確保のため、着陸時には周辺環境に十分に注意してください。
 - 次の状況では、着陸保護を使用できず、機体が不適切な地面に直接着陸する可能性があります：
 - a. 単色、反射、低照度の表面、明確な構造がない広い面積の表面、または滑らかなセラミックタイル、光量が不十分な車庫の地面、風になびく草のような動的な地表面の上を飛行している場合
 - b. 大きな岩などの明確な構造がない障害物がある地表面、盛り上がったタイルなどの反射面や単色の（全体が一色の）表面の上を飛行している場合
 - c. 送電線や木の枝などの小さい障害物や細かい障害物の上を飛行している場合
 - d. 刈り込まれた平らな低木、平らな樹木の上、半球状の地面など、平らな地面に似た表面の上を飛行している場合
 - 次の状況では、誤って着陸保護が起動し、機体が着陸できない旨のプロンプトがゴーグルに表示されることがあります：
 - a. 濡れた地面や水たまりのある場所など、ビジョンシステムが水と混同する可能性のある表面の上を飛行している場合
 - b. 平らな面の上を飛んでいるが、単色の自動車のルーフや単色のテーブルなど、構造がはっきりしている面（斜めの面や階段）が近くにある場所の上を飛行している場合

ビジョンシステムおよび赤外線検知システム

機体には下方／後方ビジョンシステムと赤外線検知システムが搭載されています。



下方ビジョンシステムの測位機能は、GNSS信号が利用できない、もしくは弱い場合に適用されません。標準モードまたはスポーツモードで自動的に有効になります。

検知範囲

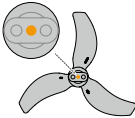
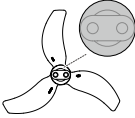
後方	FOV：78°（水平）、78°（垂直）
下方	FOV：78°（水平）、78°（垂直） 正確な測定範囲：0.3～20 m 高精度ホバリング範囲：0.3～10 m

- ⚠️ • 飛行環境に注意してください。ビジョンシステムおよび赤外線検知システムは、特定のシナリオでのみ機能し、人による操作と判断に取って代わることはできません。飛行中は、周囲の環境とゴーグルに表示される警告に注意を払ってください。いかなる場合でも、操作に責任を持ち、機体を完全に制御するようにしてください。
- 明確な構造の開けた平坦な環境下でビジョンシステムを使用した場合、機体の最大ホバリング高度は20 mです。ビジョンシステムは、機体が高度0.5～10 mにある場合に最も効果的な働きをします。ビジョンシステムの測位性能が影響を受ける場合があるため、細心の注意が必要です。
 - 機体が水面付近を飛行している場合、ビジョンシステムが適切に機能しないことがあります。そのため、着陸時に、機体の下に水面がある場合、能動的に回避できない場合があります。常に飛行を制御し続け、周囲の環境に基づいて合理的な判断を下し、下方ビジョンシステムに過度に依存しないようにしてください。
 - 機体が過度に高速で飛行している場合は、ビジョンシステムおよび赤外線検知システムが適切に機能しないことがあります。
 - ビジョンシステムは、はっきりとしたパターンの変化がない地表の周辺、または明るさが弱すぎたり強すぎたりする環境では、適切に機能しません。ビジョンシステムは、次のような状況では適切に機能しません。
 - a. 単色の（全体が一色の）表面（黒一色、白一色、緑一色など）を飛行している場合
 - b. 反射率が高い地表面付近を飛行している場合
 - c. 水面または透明な地表面付近を飛行している場合
 - d. 動く面または物体の周辺を飛行している場合
 - e. 明るさが頻繁に、または急激に変わるエリアを飛行している場合
 - f. 非常に暗い（10ルクス未満）または非常に明るい（40,000ルクス超）地表面付近を飛行している場合
 - g. 赤外線を強力に反射または吸収する地表面（鏡など）付近を飛行している場合
 - h. はっきりした模様や構造のない地表面付近を飛行している場合（電柱など）
 - i. 同じ模様や構造が繰り返し現れる（同じデザインのタイルなど）地表面付近を飛行している場合
 - j. 表面積の小さい障害物付近を飛行している場合（木枝や電線など）。
 - センサーは常にきれいな状態に保ってください。センサーを覆ったり、遮ったりしないでください。ほこりや湿気が著しくある環境では、機体を使用しないでください。赤外線検知システムを遮断しないでください。
 - 機体が衝突したときには、ビジョンシステムのキャリブレーションが必要となる場合があります。

- 雨や霧、または視界が100 m未満の場合は飛行しないでください。
- 離陸前に必ず以下を確認してください：
 - a. 赤外線検知システムやビジョンシステムのガラスに、ステッカーやその他の障害物がな
いことを確認します。
 - b. ビジョンシステムおよび赤外線検知システムのガラスに汚れや埃、水が付いている場合
は、柔らかい布で拭き取ります。アルコールを含む洗浄剤は使用しないでください。
 - c. 赤外線検知およびビジョンシステムのガラスに傷などがある場合は、DJIサポートにお問
い合わせください。

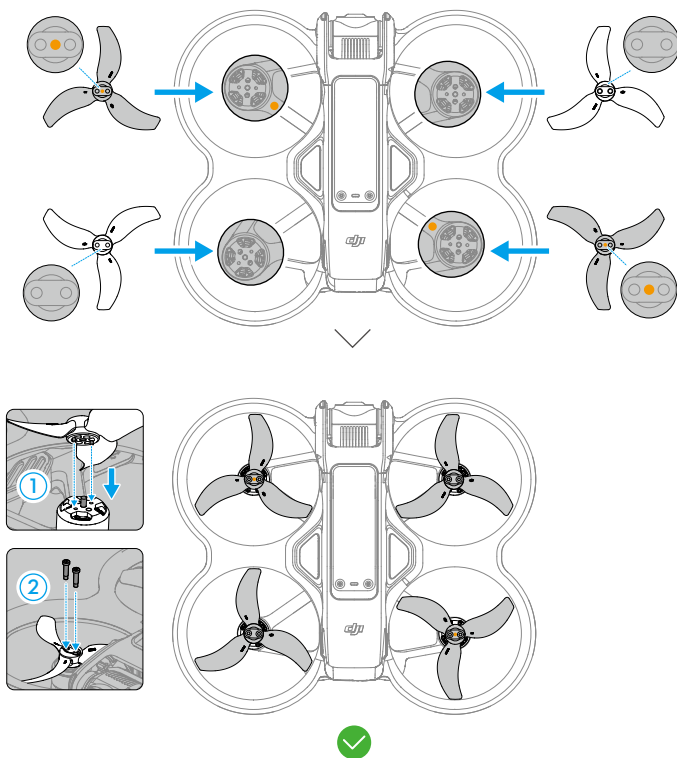
プロペラ

プロペラには2種類あり、それぞれ別の方向に回転するように設計されています。指示に従ってプロペラとモーターが合致していることを必ず確認してください。

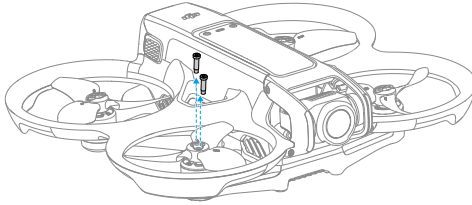
プロペラ	オレンジマークあり	オレンジマークなし
イラスト		
取り付け位置	マークありのアームのモーターに取り付け ます。	マークなしのアームのモーターに 取り付けます。

プロペラの取り付けと取り外し

マークありのプロペラはマークありのアームのモーターに、マークなしのプロペラはマークなしのアームのモーターに取り付けてください。機体パッケージに同梱された1.5 mmドライバーを使用し、プロペラを取り付けます。プロペラがしっかり固定されていることを確認してください。



機体パッケージに同梱されたドライバーを使用してねじを緩め、プロペラをモーターから取り外します。



- ⚠
- プロペラのブレードの先端は鋭利です。注意して扱ってください。
 - DJI公式のプロペラのみを使用してください。複数の種類のプロペラを一緒に使用しないでください。
 - プロペラは消耗品です。必要に応じて追加のプロペラを購入してください。
 - プロペラの取り付けには、機体パッケージに同梱されたドライバーのみを使用してください。他のドライバーを使用すると、ねじが損傷する恐れがあります。
 - プロペラが破損している場合は、対応するモーターのプロペラとねじを取り外して廃棄します。
 - 飛行前に、毎回プロペラとモーターが正しくしっかりと取り付けられていることを確認してください。飛行時間30時間（約60回分のフライト）ごとに、プロペラのねじの締め付けが十分であるかどうかを確認してください。
 - 各フライト前に、すべてのプロペラが良好な状態であり、清潔であること（異物が付着していないこと）を確認してください。古くなったり、欠けたり、損傷したプロペラは使用しないでください。プロペラに異物が付着している場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。
 - 怪我をしないよう、回転中のプロペラやモーターから離れてください。
 - プロペラの損傷を避けるため、輸送や保管の際には機体を正しく梱包してください。プロペラをひねったり折り曲げたりしないでください。プロペラが破損している場合、飛行性能が影響を受ける可能性があります。
 - モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。モーターが止まって自由に回転しない場合は、直ちに機体を着陸させてください。
 - モーターを改造しないでください。
 - 飛行後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体の一部が接触したりしないようにしてください。
 - モーターまたは機体の通気口を塞がないでください。
 - 電源を入れた時、機体のピープ音に異常がないことを確認してください。

インテリジェント フライトバッテリー

この機体にはDJI Avata 2インテリジェント フライトバッテリー（BWX520-2150-17.76）を使用できます。このバッテリーは14.76 V、2150 mAhのバッテリーで、高エネルギー密度のバッテリーセルを採用し、高度なバッテリー管理システムを採用しています。

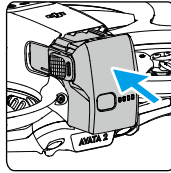
警告

⚠️ ・ご使用前に、安全ガイドラインとバッテリーのステッカーをご確認ください。ユーザーはすべての操作と使用に対する責任を負うものとします。

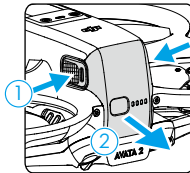
- 飛行直後にはインテリジェント フライトバッテリーが過熱していることがあります。すぐには充電しないでください。バッテリーを充電環境温度まで放熱してから、再充電してください。
- 損傷を防ぐために、バッテリーは、温度が5℃～40℃の場合にのみ充電されます。推奨する充電温度範囲は22℃～28℃です。充電中にバッテリーセルの温度が55℃を超えると、充電は自動的に停止します。
- 低温時の注意：
 - バッテリーは極低温環境（-10℃より低い）では使用できません。
 - 低温環境（-10°～5℃）で飛行すると、バッテリー容量が著しく減少します。離陸の前には、必ずバッテリーが完全に充電されていることを確認してください。バッテリーを暖める場合、機体をその場でホバリングさせることを推奨します。
 - 低温環境で、ゴーグルにローバッテリー電圧警告が表示された場合は、ただちに飛行を終了してください。
 - 最適な性能を発揮するには、バッテリー温度を20℃以上に保ってください。
 - 低温環境でバッテリー容量が減少すると、機体の風圧抵抗の性能が低下するため、細心の注意が必要です。慎重に飛行してください。
 - 低温環境で標高の高い場所を飛行する場合は、特に注意してください。
- 膨張を防ぐため3日間アイドル状態が続くときにはバッテリーはバッテリー残量の96%まで自動的に放電し、9日間アイドル状態が続くときにはバッテリー残量の60%まで自動的に放電します。放電中にバッテリーが熱を発生するのは正常です。
- 過放電はバッテリーの重大な損傷につながります。バッテリー残量が低下しすぎると、バッテリーはスリープモードに入り、過剰放電を防止します。
- 過放電保護が有効で、バッテリーが使用されていない場合に放電が自動的に停止し、過放電を防止します。再度使用する前にバッテリーを充電すると、過放電保護が解除されます。使用されている場合、バッテリーの過放電保護は無効です。
- バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヵ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。バッテリーを長期間使用しないと、バッテリーの性能に影響が出たり、バッテリーが永久的な損傷を引き起こす場合があります。
- 安全上の理由から、輸送中はバッテリーの残量を低い状態にしておいてください。輸送前に、バッテリーを30%以下に放電しておくことをお勧めします。

バッテリーの挿入／取り外し

インテリジェント フライトバッテリーを機体のバッテリー収納部に挿入します。バッテリーバックルがしっかりと固定されると、カチッという音がします。これでバッテリーが完全に挿入されていることを確認できます。



バッテリーの側面にあるバッテリーバックルの突起部分を押し、収納部から取り外します。

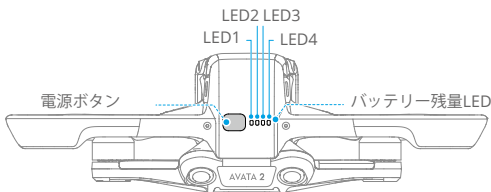


- ⚠
- 機体の電源が入っているときは、バッテリーを挿入したり取り外したりしないでください。
 - カチッという音でバッテリーが挿入されていることを確認します。バッテリーがしっかりと取り付けられていない場合に離陸しないでください。バッテリーと機体の接触が悪くなり、危険を招く恐れがあります。バッテリーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

バッテリーの使用

バッテリー残量の確認

電源ボタンを1回押すと、バッテリー残量を確認できます。



目録 バッテリー残量LEDは、充電中および放電中に、バッテリーの残量を表示します。LEDのステータスは以下のように定義されます：

- LEDが点灯。 ● LEDが点滅。 ○ LEDが消灯。

LED1	LED2	LED3	LED4	バッテリー残量
●	●	●	●	88%～100%
●	●	●	●	76%～87%
●	●	●	○	63%～75%
●	●	●	○	51%～62%
●	●	○	○	38%～50%
●	●	○	○	26%～37%
●	○	○	○	13%～25%
●	○	○	○	0%～12%

電源のオン／オフ

電源ボタンを1回押して再度2秒間長押しすると、機体の電源オン／オフを切り替えられます。機体の電源を入れると、バッテリー残量LEDにバッテリー残量が表示されます。機体の電源が切れると、バッテリー残量LEDが消灯します。

ファームウェアの更新

更新の必要なバッテリーがさらにある場合、機体に挿入して電源を入れてください。ゴーグルにバッテリー更新のプロンプトが表示されます。離陸の前には、必ずバッテリーが更新されていることを確認してください。

下表は、更新プロセス中のバッテリー情報と、対応するLED点滅パターンを示しています。

点滅パターン				情報
LED1	LED2	LED3	LED4	
○	●	●	○	バッテリーファームウェアの更新中
○	●	●	○	ファームウェアの更新に失敗

- △ ・更新に失敗した場合は、バッテリーを機体に挿入して電源を入れ直し、DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用してファームウェア更新を再試行します。詳しくは、ファームウェア更新のセクションを参照してください。

バッテリーの充電

各使用前には、必ずバッテリーを完全に充電してください。DJI Avata 2 2WAY充電ハブ、DJI 65W ポータブル充電器、またはその他のUSB Power Delivery充電器など、DJIが提供する充電器を使用することをお勧めします。DJI Avata 2 2WAY充電ハブとDJI 65Wポータブル充電器は、どちらもオプションのアクセサリです。詳しくは、DJIの公式オンラインストアでご確認ください。

⚠️ ・機体に取り付けられたバッテリーを充電する場合、対応する最大充電電力は30 Wです。

充電器の使用

1. バッテリーが機体に正しく取り付けられていることを確認してください。
2. 充電器をAC電源（100～240V、50/60 Hz、必要に応じて電源アダプターを使用）に接続します。
3. 充電器を機体の充電ポートに接続します。
4. 充電中、バッテリー残量LEDは現在のバッテリー残量を表示します。
5. すべてのバッテリー残量LEDが消灯したら、バッテリーの充電は完了です。バッテリーが完全に充電されたら、充電器を取り外します。

⚠️ ・機体の電源が入っているとバッテリーを充電できません。

充電ハブの使用

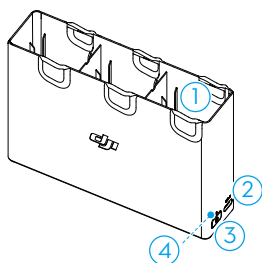


以下のリンクにアクセスして、DJI Avata 2 2WAY充電ハブのチュートリアル動画をご覧ください。



<https://s.dji.com/guide77>

DJI Avata 2 2WAY充電ハブは、互換性のある充電器と一緒に使用すると、最大3個のDJI Avata 2 インテリジェント フライトバッテリーを高出力レベルから低出力レベルまで順に充電できます。インテリジェント フライトバッテリーを挿入した後、充電ハブから、USB-Cポート経由で外部デバイス（送信機やスマートフォンなど）に電力を供給することができます。充電ハブの集電機能を使用すると、複数の低電力バッテリーの残量を、残量の一番多いバッテリーに移動することもできます。

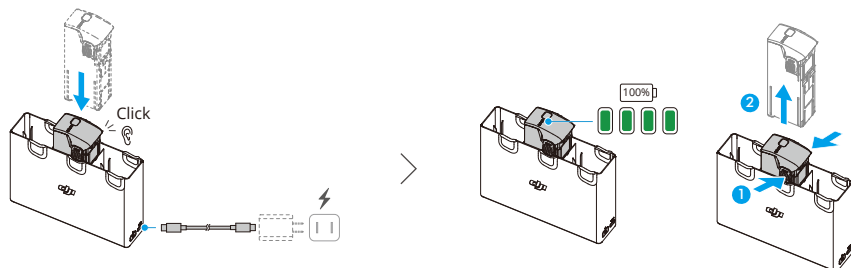


- 1.バッテリーポート
- 2.USB-Cポート
- 3.機能ボタン
- 4.ステータスLED

- ⚠️
- 充電ハブを使用してインテリジェント フライトバッテリーを充電する場合は、DJI 65W ポータブル充電器またはUSB Power Delivery充電器を使用することをお勧めします。DJI 65W ポータブル充電器と併用すると、充電ハブはインテリジェントフライト バッテリー 1個を約45分で完全に充電できます。
 - 充電ハブは、BW520-2150-14.76インテリジェント フライトバッテリーとのみ互換性があります。それ以外のバッテリーモデルと一緒に充電ハブを使用しないでください。
 - 外部デバイスを充電するとき、または集電するとき、充電ハブを換気が良い、平らで安定した面に置いてください。火災の危険を防ぐために、本機器が適切に絶縁されていることを確認してください。
 - バッテリーポートの金属端子には、触れないでください。金属端子の汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。
 - バッテリー残量の少ないバッテリーは適時に充電してください。充電ハブにバッテリーを保管することをお勧めします。

インテリジェント フライトバッテリーの充電

1. カチッと音がするまで、バッテリーを充電ハブに挿入します。
2. USB-C充電器を使用して、充電ハブを電源コンセントに接続します。まず、バッテリー残量の一番多いインテリジェント フライトバッテリーを完全に充電し、他のバッテリーも残量が多いものから順に充電します。充電中はステータスLEDでバッテリー残量を表示します。ステータスLEDインジケータの点滅パターンの詳細については、「ステータスLEDインジケータの説明」を参照してください。機能ボタンを押して、挿入したバッテリーの残量を確認してください。
3. バッテリーの充電後、充電ハブにバッテリーを保管できます。使用するとき、充電ハブからバッテリーを取り外します。

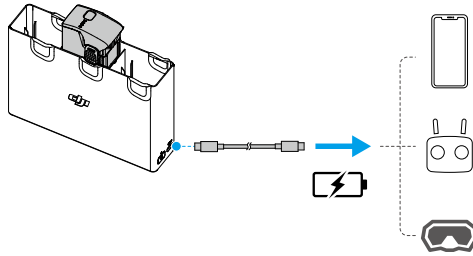


充電ハブをモバイルバッテリーとして使用

1. インテリジェント フライトバッテリーを充電ハブに挿入します。スマートフォンや送信機などの外部デバイスをUSB-Cポート経由で接続します。
2. バッテリー残量の最も少ないバッテリーから先に放電され、その後、バッテリー残量が少ない順に放電されます。外部デバイスの充電を停止するには、外部デバイスを充電ハブから取り外します。



- バッテリー残量が7%未満の場合、バッテリーは外部デバイスを充電できません。
- 充電が自動的に開始されない場合は、充電ハブの機能ボタンを押して充電を有効にします。

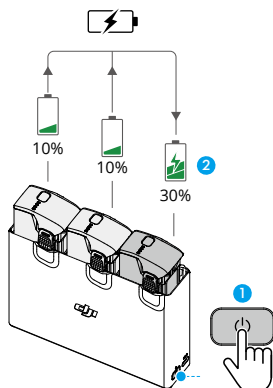


集電機能

1. 充電ハブにバッテリーを2個以上挿入し、ステータスLEDが緑色になるまで、機能ボタンを長押ししてください。充電ハブのステータスLEDが緑色に点滅した場合、バッテリー残量が最も低いバッテリーからバッテリー残量が最も高いバッテリーに電力が移動します。
2. 集電を停止するには、ステータスLEDが黄色になるまで、機能ボタンを長押ししてください。集電を停止した後、機能ボタンを押してバッテリー残量を確認してください。



- 以下の状況では、集電は自動停止します。
 - a. 充電される側のバッテリーが完全に充電されているか、出力する側のバッテリーの電力が5%未満の場合。
 - b. 集電中に、充電器や外部デバイスを充電ハブに接続したり、バッテリーを充電ハブに挿入、または、充電ハブから引き抜かれたりした場合。
 - c. バッテリーの温度異常により、集電が15分以上中断した場合。
- 集電後は、過放電を避けるため、できるだけ早く、バッテリー残量の一番少ないバッテリーを充電してください。



ステータスLEDインジケーターの説明

点滅パターン	説明	
—	黄色に点灯	充電ハブがアイドル状態
—	緑色点滅	バッテリーを充電中または集電中
—	緑色に点灯	全てのバッテリーが完全に充電済み、または、外部デバイスに電力供給中
.....	黄色に点滅	バッテリーの温度が低すぎるか高すぎる（それ以上の操作は不要）
—	赤色に点灯	電源またはバッテリーエラー（バッテリーを取り外し再挿入するか、充電器のプラグを抜き差ししてください）

バッテリー保護メカニズム

バッテリー残量LEDは、異常な充電状態に関するバッテリー保護通知を表示します。

バッテリー保護メカニズム				点滅パターン	状態
LED1	LED2	LED3	LED4		
				LED2が毎秒2回点滅	過電流検知
				LED2が毎秒3回点滅	短絡検知
				LED3が毎秒2回点滅	過充電検知
				LED3が毎秒3回点滅	充電器の過電圧検知
				LED4が毎秒2回点滅	充電温度が低すぎる
				LED4が毎秒3回点滅	充電温度が高すぎる

バッテリー保護メカニズムが有効になった場合、充電を再開するには充電器のプラグを抜き、その後、再び差し込みます。充電温度範囲が異常な場合は、正常に戻るまでお待ちください。バッテリーは自動的に充電を再開します。その際に充電器のプラグを抜き差しする必要はありません。

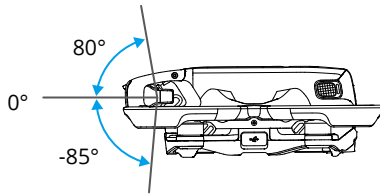
ジンバルとカメラ

ジンバルの特徴

機体のジンバルがカメラを安定させるため、ユーザーは高速飛行中でも鮮明で安定した画像や動画を撮影できます。

ジンバル角度

ジンバルの制御チルト範囲は -85° ～ $+80^{\circ}$ です。カメラのチルトを制御するには、送信機を使用します。



ジンバルモード

ジンバルモードはフライトモードに応じて自動的に切り替わります。

標準/スポーツモード：ジンバルは姿勢安定化モードになっています。ジンバルのチルト角は水平面に対して安定した状態で、安定した映像を撮影するのに適しています。

マニュアルモード：ジンバルはロックモードになっています。ジンバルのチルト角は機体本体に対して安定した状態です。

- ⚠
- 離陸する前に、ジンバルにステッカーが貼られていないことや障害物がないことを確認してください。機体の電源を入れた状態で、ジンバルを押し下したり叩いたりしないでください。ジンバルを保護するために、平らで開けた場所から機体を離陸させてください。
 - 衝突や衝撃によりジンバルの精密性が損なわれるおそれがあります。損傷があると、ジンバル性能に異常をきたすことがあります。ジンバルを損傷から保護してください
 - ジンバル（特にジンバルのモーター）に埃や砂が付着しないようにしてください。
 - 機体が平らではない地面上に置かれている、ジンバルの動きが妨害されている、または衝突や墜落した場合、ジンバルモーターでエラーが発生することがあります。
 - 機体の電源をオンにした後、ジンバルに外力をかけないでください。

- ⚠
- ・ジンバルに公式アクセサリ以外の余計なペイロードをかけないでください。ジンバル動作の不具合だけでなく、モーターの損傷を引き起こすおそれがあります。
 - ・機体の電源を入れる前に、必ずジンバル プロテクターを取り外してください。機体を使用しないときは、必ずジンバル プロテクターを取り付けてください。
 - ・濃霧や雲の中を飛行すると、ジンバルが湿気を帯びて一時的に不具合が生じることがあります。ジンバルが乾くと機能は正常に戻ります。

警告

1. センサーの破損を避けるため、レーザーショーのようなレーザー光線のある環境にカメラのレンズをさらしたり、晴れた日の太陽のような強い光源に長時間カメラを向けたりしないでください。
2. 使用中や保管中は、温度と湿度がカメラの適切な範囲内であることを確認してください。
3. レンズクリーナーを使用してレンズを清掃し、損傷や画質の低下を防いでください。
4. カメラの通気口をふさがないようにください。熱が発生して、負傷したり、機器が損傷したりするおそれがあります。
5. 録画した動画の後処理にGyroflowなどのオフライン映像ブレ補正ソフトウェアを使用する場合は、録画時にEISを無効にし、GoogleのカメラFOVをワイドに設定してください。
6. 下記の状況では、カメラのフォーカスが正しく動作しない場合があります：
 - a. 遠くにある暗い物体を撮影する場合。
 - b. 同じ模様や質感が繰り返されている物体、または明確な模様や質感がない物体を撮影する場合。
 - c. 輝いている物体、反射率が高い物体を撮影する場合。（例：街灯やガラスなど）。
 - d. 点滅している物体を撮影する場合。
 - e. 高速で動いている物体を撮影する場合。
 - f. 機体やジンバルの動きが速い場合。
 - g. 焦点距離の異なる物体を撮影する場合。

映像の保存とエクスポート

映像の保存

機体には46GBの内部ストレージが搭載されています。microSDカードが利用できない場合は、機体の内部ストレージに写真や動画を保存することもできます。機体は、microSDカードを使用して写真や動画を保存することができます。高解像度動画データの保存には高速の読み書き速度が必要なため、UHS-Iスピードクラス3規格以上のmicroSDカードが必要です。推奨microSDカードに関しては、仕様を参照してください。

大容量のデータを保存する場合、microSDカードの使用をお勧めします。

- ☀️ • 機体が記録した写真と動画をプレビューできます。機体のmicroSDカードをGoogleのmicroSD カードスロットに挿入します。
-
- ⚠️ • 機体の電源が入っているとき、写真や動画を撮影しているときは、機体からmicroSDカードを抜かないでください。microSDカードが損傷する可能性があります。
 - 使用する前にカメラ設定を確認し、正しく設定されていることを確認してください。
 - 大切な写真や動画を撮影する前に、いくつかの画像を試し撮りし、カメラが正しく動作するか確認してください。
 - 機体の電源を正しく切ってください。正しく電源を切らなかった場合、カメラのパラメーターが正常に保存されず、記録された動画に影響がある場合があります。機械が読み取れない方式で記録された画像や動画による損失に対し、DJIは一切責任を負いません。
 - 長時間使用すると内部ストレージの性能が低下することがあります。Googleの説明に従ってデータを移行し、フォーマットすることで、内部ストレージのパフォーマンスが向上します。
-

映像のエクスポート


映像をモバイル端末にエクスポートするには、クイック転送を使用してください。詳しくは、クイック転送のセクションを参照してください。

1. データケーブルを使用して機体をパソコンに接続し、機体の内部ストレージまたは機体に挿入されたmicroSDカードの映像をエクスポートします。エクスポート処理中に機体の電源を入れる必要はありません。
2. 機体からmicroSDカードを取り外し、カードリーダーに挿入して、カードリーダーからmicroSDカード内の映像をエクスポートします。

クイック転送

機体はWi-Fi経由でモバイル端末に直接接続でき、ユーザーはDJI Flyを通じて機体からモバイル端末に写真や動画を高速でダウンロードできます。

クイック転送を使用して映像をエクスポートするには、以下の手順に従ってください：

1. 機体の電源を入れて、機体の自己診断テストが完了するまで待ちます。
2. モバイル端末のBluetooth、Wi-Fi、位置情報サービスを有効にします。
3. DJI Flyを起動し、ホーム画面左下のクイック転送カードをタップし、接続する機体を選択します。DJI Flyを初めて機体に接続する場合は、アプリにプロンプトが表示された後、電源ボタンを2秒間長押しします。バッテリー残量LEDは内側から外側へ点滅し、その後点灯します。DJI Flyは、機体に接続するかどうかをユーザーに促します。
4. 接続に成功すると、機体のファイルにアクセスでき、高速ダウンロードが可能になります。

- ☀️ • クイック転送を使用して機体をDJI Flyに接続すると、機体はGoogleと送信機から接続が切断されます。既存のクイック転送を終了すると、接続は自動的に復元されます。DJI Flyが異常終了した場合、機体を再起動しないと接続は自動的に復元されません。
-

- ⚠
- 最大ダウンロードレートは、5.8 GHz周波数が法律および規制によって許可されている国や地域で、5.8 GHz周波数帯域とWi-Fi接続に対応したデバイスを、干渉や障害物のない環境で使用する場合にのみ実現できます。5.8 GHzが現地の規制で許可されていない場合（日本など）、ユーザーのモバイル端末は5.8 GHzの周波数帯域に対応しないか、強い干渉を受ける可能性があります。このような状況では、クイック転送は2.4 GHzの周波数帯域を使用して最大ダウンロードレートが大幅に低下します。
 - 干渉や障害物のない環境でクイック転送を使用し、無線ルーター、Bluetoothスピーカー、ヘッドホンなどの干渉源に近づかないでください。
 - リンク作業プロセスが開始されるのを避けるため、機体の電源ボタンを長押ししないでください。
-

DJI Goggles 3

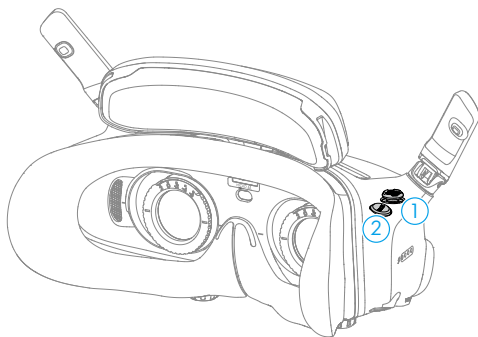
DJI Goggles 3

DJI Goggles 3は、2つの高性能画面とDJI機体で使用するための超低遅延画像伝送を備え、リアルタイムの空中一人称視点（FPV）を体験できます。DJI Goggles 3は、ヘッドトラッキング機能に対応しています。この機能により、頭部の動きを利用して機体とジンバルを制御できます。DJI RC Motion 3とともに使用すると、機体とジンバルカメラを自由に制御でき、さまざまなシナリオでの撮影ニーズを満たすことができます。

より快適な体験を実現できるように、本ゴーグルは視度調整に対応しているため、使用中は眼鏡を必要としません。ゴーグルの前面には2つのカメラがあり、ユーザーはゴーグルを外すことなくリアルビューで周辺環境を見ることができます。また、ゴーグルはWi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有することもできます。

ゴーグルの操作

ボタン



1. 5Dボタン

ゴーグルのFPVビューからメニューを開くには、右に押すか押し込みます。前方に押すとカメラ設定パネルが開き、後方に押すとショートカットメニューが開きます。

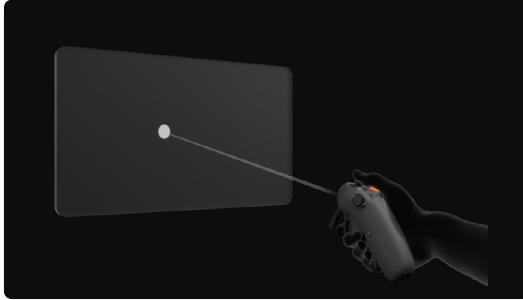
設定パネルが開いたら、ボタンを押してメニューを移動したり、パラメーター値を調整することができます。押して、選択を確定します。

2. 戻るボタン

押すと前のメニューに戻るか、現在のビューを終了します。

ARカーソル

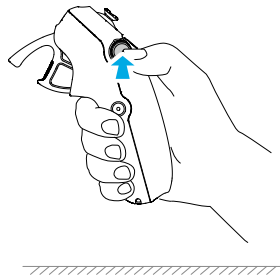
離陸前、またはロックボタンを使用して機体をホバリングさせる際、ユーザーはARカーソル（先端に丸のついた白い線）を使用して、ゴーグルの画面を操作することができます。



⚠️ • ARカーソルは、車や船など動いている物体の上で使用すると、正しく機能しません。

カーソルの再センタリング

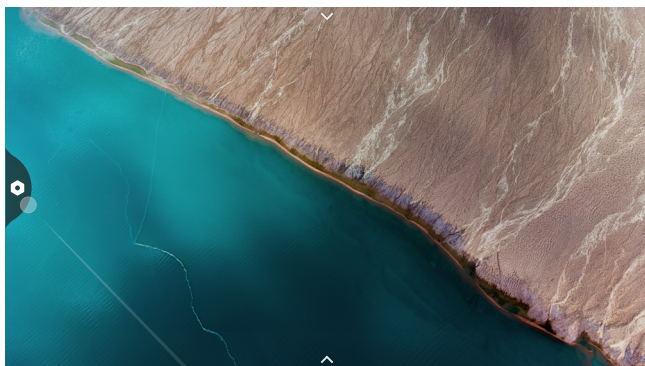
ゴーグルの画面にカーソルが表示されていない場合は、モーションコントローラーを下図のように持ち、モーションコントローラーの左側にあるダイヤルを長押ししてカーソルを再調整してください。



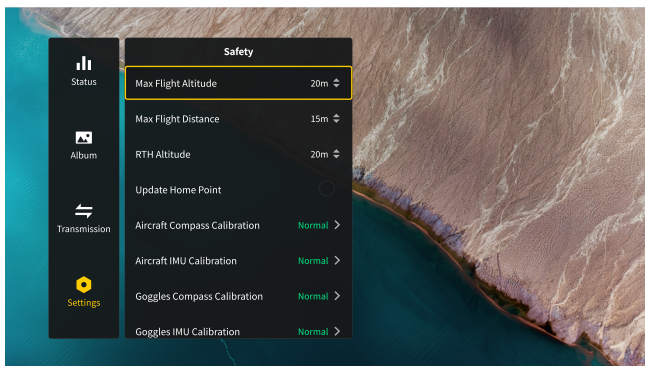
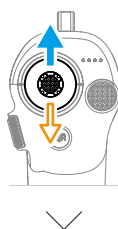
それでもカーソルが見つからない場合は、画面にカーソルが表示されるまでモーションコントローラーを上下に傾けます。

メニューの操作

- モーションコントローラーの動きを利用して、画面左側の矢印にカーソルを移動させます。アクセルを最初の停止位置まで軽く引くと、カーソルが小さくなり、メニューが開きます。

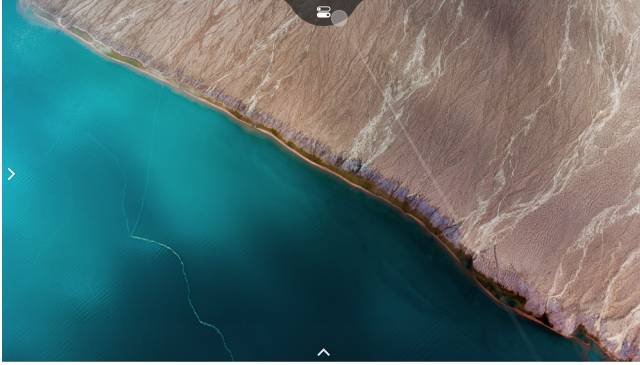


モーションコントローラーのジョイスティックを使用して、メニューを上下にスクロールします。



終了または前のメニューに戻るには、アクセルを前方に押すか、カーソルが画面上の空いている場所にあるときにアクセルを軽く引きます。

- 画面上部の矢印にカーソルを合わせ、アクセルを引くとショートカットメニューに入り、録画や拡張ディスプレイなどの設定を行うことができます。



- 画面下部の矢印にカーソルを合わせ、アクセルを引いてカメラ設定に入り、機体カメラのパラメーターを設定します。



動画再生の操作

ゴースルのmicroSDカードに保存された写真や動画をプレビューする際、カーソルを使用して再生操作や以下のような他の操作を行うことができます：

- アクセルを引くと再生を一時停止または継続し、アクセルを前方に押すと終了します。
- アクセルを引きながらカーソルを左右に動かし、進捗バーを調整します。
- カーソルを画面上部の矢印に合わせ、アクセルを引いて再生設定に入り、画面の明るさや音量を調整します。

ゴーグルの画面

FPVビュー



1. 飛行方向インジケーター

モーションコントローラーで機体を制御する場合、円は機体の進行方向を示します。

2. ストレージ情報

機体またはゴーグルのストレージの空き容量を表示します。

3. ジンバルスライダー

ジンバルのチルト角を表示します。

4. プロンプト

新しいモードが適用されたときや、バッテリー残量が低下しているときなどに、その通知や情報を表示します。

5. ゴーグルのバッテリー残量

ゴーグルの現在のバッテリー残量を表示します。

6. GNSSステータス

現在の機体のGNSS信号強度を表示します。

デバイスが長時間使用されていなかった場合、GPS信号の検索に通常より時間がかかることがあります。短時間で電源をオン/オフした場合、信号を妨害するものがなければ、GNSS信号の検索には20秒ほどしかかかりません。アイコンが白色の場合、GNSS信号が強いことを示します。アイコンがオレンジ色の場合、GNSS信号が弱いことを示します。アイコンが赤色の場合、GNSS信号が非常に弱いことを示します。

7. 動画ビットレート

現在のライブビュー動画ビットレートを表示します。

8. 送信機信号と映像伝送信号の強度

機体と送信機間の信号強度と、画像伝送の信号強度（機体～ゴーグル間）を表示します。

アイコンは、信号が強いと白色になり、信号がなくなるとグレーになります。

アイコンは、信号が中程度に弱いとオレンジ色になり、極端に弱いと赤色になります。同じ色のプロンプトバーがフライトライブビューの下部に表示されます。

9. 飛行可能残時間

機体の残り飛行時間を表示します。

10. 機体のバッテリー残量

11. 地面までの距離

機体が地面から10 m未満の高度で飛行しているときの機体の地面からの現在の高度情報を表示します。

12. フライトテレメトリ

機体とホームポイント間の水平距離（D）、ホームポイントからの高さ（H）、機体の水平速度、および機体の垂直速度を表示します。

13. フライトモード

現在のフライトモードを表示します。

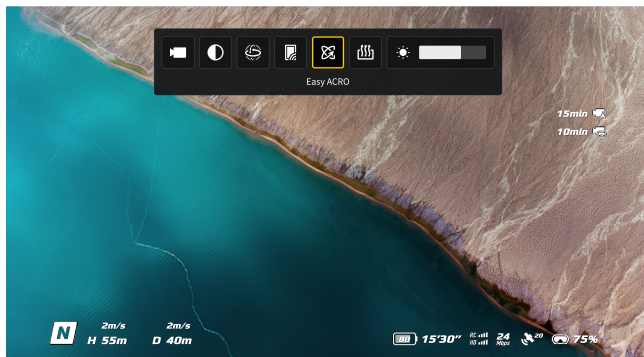
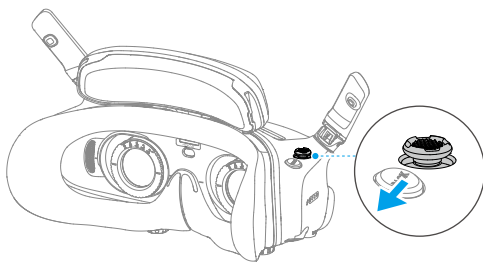
14. ホームポイント

ホームポイントの相対位置を示します。

ショートカットメニュー

5Dボタンを後方に押すと、FPVビューからショートカットメニューが開かれ、以下の機能にすばやくアクセスして、操作することができます。

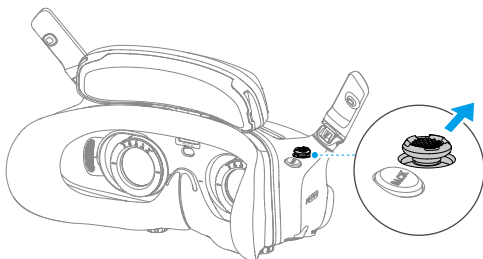
- 写真撮影、または動画撮影の開始/停止
- エンハンス表示の有効化/無効化
- ヘッドトラッキングの有効化/無効化
- Wi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有の有効化/無効化
- 簡単ACROの有効化/無効化
- ゴーグル曇り止めの有効化/無効化
- 明るさの調整

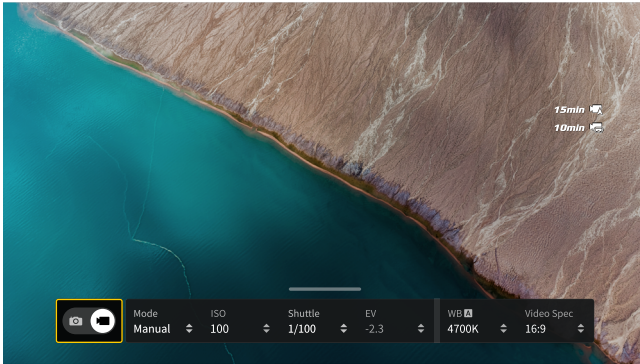


カメラ設定

5Dボタンを前方に押しすと、FPVビューからカメラ設定パネルが開かれ、カメラ関連のパラメーターを変更できます。

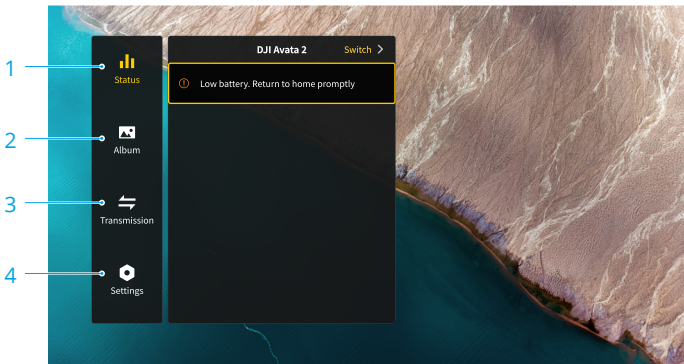
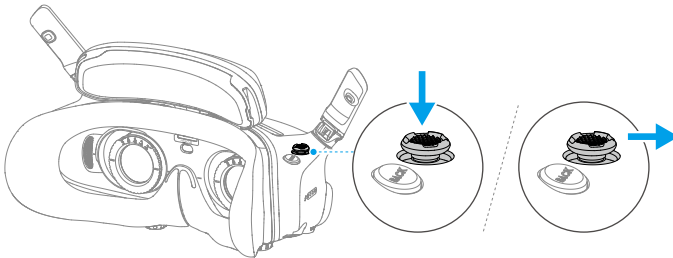
パラメーターパネルで右に押しすと、さらに多くのパラメーターを表示・設定することができます。





ゴーグルメニュー

5Dボタンを右に押すか押し込むと、FPVビューからメニューが開きます。



1. ステータス

- 使用中の機体モデルとプロンプト警告の詳細情報を表示します。
- 機体を変更するには、右上隅の切り替え機能を使用します。

2. アルバム

GoogleのmicroSDカードに保管された写真または動画を表示します。プレビューする任意のファイルを選択します。

3. 伝送


伝送メニューには、[パイロット]サブメニューと[オーディエンス]サブメニューがあります。

- 現在のデバイスに対する映像伝送モードの設定は、パイロットサブメニューで行えます。設定できる内容は、以下の項目などがあります：
 - a) 発信モードを有効または無効にします。発信モードが有効になると、デバイス番号が表示されます。これにより、他のデバイスがそのデバイス番号でチャンネルを見つけて入り、飛行ライブビューを見ることができます。
 - b) フォーカスモードを無効、または自動に設定します。
 - c) チャンネルモードを自動または手動に設定します。[自動]を選択することをお勧めします。これにより映像伝送は異なる周波数帯域を自動的に切り替え、最良の信号のチャンネルを選択します。
 - d) 周波数帯を設定します。チャンネルモードが手動に設定されている場合、2.4 GHzまたは5.8 GHzのいずれかを選択できます。
 - e) 映像伝送の帯域幅を設定します。使用可能なチャンネル数は帯域幅によって変わります。最良の信号強度を受信できるチャンネルは手動で選択できます。帯域幅が高いほど、動画転送レートが高くなり、画質が鮮明になります。ただし、無線干渉の可能性も高まり、使用可能な機材の数がより制限されます。多人数でプレイする競技会で干渉を避けるには、固定した帯域幅とチャンネルを手動で選択してください。
- 配信モードがオンになっている映像伝送デバイスが近くにある場合、デバイスとその信号強度をオーディエンスサブメニューで確認することができます。チャンネルを選択して、飛行ライブビューを見ます。

4. 設定

- 安全性
 - a) 最大飛行高度、最大飛行距離、RTH高度などの安全に関する設定を行います。また、必要に応じて、ホームポイントを更新したり、機体やGoogleのIMUとコンパスステータスを確認したり、キャリブレーションすることもできます。
 - b) [消失前のカメラビュー]は、信号が消失する30秒前に取得した機体のキャッシュ動画を使用し、地上にある機体の位置を特定するのに役立ちます。機体に信号とバッテリー残量がまだある場合は、ESCのピープ音をオンにすると、機体からのピープ音で機体の位置を特定できます。
 - c) 高度安全設定には、以下の項目が含まれます：
 - 機体の信号喪失時のアクション：送信機からの信号喪失時に、機体の動作を、ホバリング、着陸もしくはRTHに設定できます。
 - 緊急プロペラ停止（デフォルトでは無効）：有効になっている場合、飛行中にモーションコントローラーのロックボタンを4回押すと、機体のモーターをいつでも停止できます。この切り替えが無効になっている場合、衝突の発生、モーター停止、空中での機体

のローリング、機体の操縦不能、急激な上昇／降下などの緊急時にのみ、このアクションでモーターを停止できます。


 ・飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。慎重に操作してください。

・ 制御

- スティックモード、カスタムボタン、IMUやコンパスのキャリブレーションなどの送信機関連機能を設定できます。
- モーションコントローラーの説明の表示、利き手の切り替え、ゲインチューニングの調整、または動作コントローラーのキャリブレーション。
- ジンバルのキャリブレーション、ジンバルのチルト速度の調整、ユニットの設定、またはターゲットモードを使用して、横転した機体を起こしたりできます。
- ゴーグルのチュートリアルを表示します。

・ カメラ

- アスペクト比、動画品質、動画フォーマット、グリッド線、ストレージ用デバイスの設定、SDカードのフォーマットなど。

 ・フォーマット後にはデータを回復できません。慎重に操作してください。

b) カメラ詳細設定：

- 録画デバイス、画面関連パラメーター、離陸時の自動録画の有効／無効などを設定できます。
- カメラビュー録画（デフォルトで有効）：無効にすると、ゴーグル画面の録画にOSD（オンスクリーンディスプレイ）要素が含まれなくなります。

- [カメラパラメーターをリセット]を選択すると、すべてのカメラ設定をデフォルトに戻すことができます。

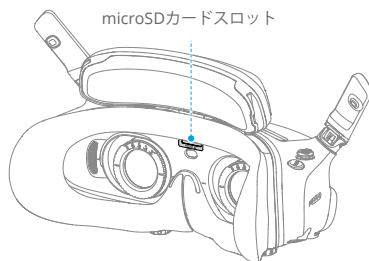
・ ディスプレイ

- 画面の輝度、ディスプレイのスケールリング、ホームポイントの表示／非表示を調整できます。
- ゴーグル曇り止め：有効にすると、冷却ファンが高速で作動し続け、レンズの曇りを軽減します。
- リアルビューの表示を設定します。

・ 詳細

- シリアル番号、ゴーグルのファームウェア、リンクされているデバイスなどのデバイス情報を表示します。
- システム言語を設定します。
- OTG有線接続：このモードでは、USB-C急速充電ケーブルでゴーグルをPCに接続できません。
- コンプライアンス情報を表示します。
- ゴーグルとリンクされているデバイスをデフォルトの設定にリセットします。
- すべての機器データの消去：使用中に生成され、機体に保存されたすべてのユーザーデータは消去されます。

ゴーグルの映像の保存とエクスポート



映像の保存

本ゴーグルは microSDカードの使用に対応しています。microSDカードの挿入後、[Record With] が機体とゴーグルの両方に設定されている場合、機体が動画を撮影している間、ゴーグルは画面に表示されている飛行ライブビューを同時に録画し、ゴーグルのmicroSDカードに保存します。

映像のエクスポート

録画した映像をエクスポートするには、下記手順に従ってください：

1. ゴーグルの電源を入れます。
2. USB-A - USB-Cケーブルを使用してゴーグルのUSB-CポートをPCに接続し、画面の指示に従って映像をエクスポートします。

⚠️ ・ゴーグルがUSB-C急速充電ケーブルでPCに接続されている場合は、ゴーグルのメニューから [設定] > [詳細] を選択し、OTG有線接続モードに入って映像をエクスポートします。

画面収録には、デフォルトでOSD要素が含まれます。OSD要素なしで画面を録画するには、以下のように設定を変更してください。

1. ゴーグルメニューを開きます。
2. 設定 > カメラ > カメラ詳細設定の順に選択し、カメラビュー録画を無効にします。

SDカードのフォーマット

microSDカードをフォーマットするには、下記手順に従ってください：

1. ゴーグルメニューを開きます。
2. 設定 > カメラ > フォーマットの順に選択します。
3. フォーマットするストレージデバイスを選択し、画面の指示に従って操作を完了させます。

⚠️ ・フォーマット後にはデータを回復できません。慎重に操作してください。

Real View

DJI Goggles 3には双眼カメラが搭載されており、ゴーグルを装着したまま周辺環境を見ることができます。

ゴーグルの右側を強く2回タップするか、モーションコントローラーのダイヤルを2回押すと、リアルビューに入ることができます。

飛行を終了してライブビューに戻るには、もう一度同じ操作を行います。

ゴーグルのメニューに入り、[設定] > [ディスプレイ] を選択し、リアルビューを2Dまたは3Dに設定します。

3Dは、より没入感のある立体的なリアルビューを実現します。お好みに合わせて選択してください。

Real View PiP

ゴーグルが機体と一緒に使用されている場合、Real Viewはリアルタイムの飛行ライブビューの表示に対応しています。

1. ゴーグルのメニューに入り、[設定] > [ディスプレイ] を選択し、リアルビューPiPを有効にします。
2. ゴーグルの右側を2回強くタップするか、モーションコントローラーのダイヤルを2回押すと、リアルビューの左上に飛行ライブビューが表示されます。ゴーグルの画面には、現実の周囲と機体の映像が同時に表示されます。

☹️ • リアルビューが3Dに設定されている場合、飛行ライブビューを同時に画面に表示することはできません。

⚠️ • Real View PiPを使用する場合、飛行ライブビューは機体のステータスを表示するためにのみ使用されます。この画面を頼りに飛行しないでください。

ライブビュー共有

DJI Goggles 3は、3つの異なる方法で飛行ライブビューを共有することができます。

☹️ • 機体、ゴーグル、送信機の電源を入れます。すべてのデバイスがリンクされていることを確認します。

⚠️ • パイロットの操作を妨げないよう、離陸前、または機体がブレーキをかけている時やホバリングしている時にライブビュー共有機能进行操作してください。

• ゴーグルは、ライブビューを共有するために、ワイヤレス接続または有線接続のいずれかで、1つのモバイル端末との接続にのみ対応しています。


• モバイル端末に接続している場合、ゴーグルがリアルビューに切り替わるとライブビュー共有は一時停止し、ゴーグルが飛行ライブビューに切り替わると共有は回復します。


• モバイル端末に接続している場合、アルバム内の画像や動画を表示すると、ライブビュー共有は一時停止されます。共有を回復するには、アルバムを終了します。

モバイル端末との有線接続

1. モバイル端末をゴーグルのUSB-Cポートに接続するには、適切なデータケーブルまたは付属のUSB-C OTGケーブルを使用することをお勧めします。
2. DJI Flyアプリを起動し、画面右下のGO FLYをタップするとライブビューに入ります。

モバイル端末とのワイヤレス接続

1. ショートカットメニューを開き、[Wi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有] を選択します。
2. モバイル端末のWi-FiとBluetoothをオンにし、スマートフォンの位置情報機能を有効にします。
3. DJI Flyアプリを起動すると、ホームページのボックスにWi-Fi接続可能な新しいデバイスが表示されます。
4. ボックスをタップし、接続するゴーグルを選択します。
5. DJI Flyを初めて機体に接続する場合は、アプリにプロンプトが表示されたら、ゴーグルの電源ボタンを2秒間長押しします。バッテリー残量LEDは内側から外側へ点滅し、その後点灯します。DJI Flyは、必要に応じてゴーグルとの接続を促します。[参加] を選択します。
6. [ライブビューを視聴] をタップすると、ゴーグルからライブビューにアクセスできます。

-
-  • リンク作業プロセスの起動を避けるため、ゴーグルの電源ボタンを長時間押さないください。
- [Wi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有] を有効にした場合、モバイル端末との有線接続には対応しません。
 - ワイヤレス接続モードでは、ライブビュー共有のためにゴーグルを別の新しいモバイル端末に接続する前に、ゴーグルを現在接続しているモバイル端末から切断してください。
 - (日本のように) 5.8 GHzが規制で許可されていない場合、Wi-Fi経由でライブビューをモバイル端末に共有することはできません。
-


他のゴーグルへの発信

発信モードでは、近くにDJI Goggles 3があれば、他のゴーグルにライブビューを共有することができます。

1. ゴーグルメニューに入り、[伝送] を選択し、パイロットのサブメニューに入ります。
2. 発信モードをオンにすると、デバイス番号が表示されます。
3. 他のDJI Goggles 3で、ゴーグルのメニューに入り、[伝送] を選択すると、[オーディエンス] サブメニューに入ります。
4. 近くにあるDJI Goggles 3が発信モードをオンにすると、そのデバイスと信号強度がオーディエンスのサブメニューに表示されます。ライブビューにアクセスするデバイス番号を選択します。ライブビュー共有を終了するには、パイロットのサブメニューに切り替えます。

パノラマ／3D動画再生

このゴーグルはパノラマ動画や 3D動画の再生に対応しており、没入感のある視聴体験を実現します。

1. パノラマ／3D動画をmicroSDカードにインポートし、カードをゴーグルに挿入します。
2. ゴーグルのメニューに入り、次にアルバムに入り、再生する動画ファイルを選択します。
3. 5Dボタンを後ろへ押して再生メニューを開き、表示切替設定を選択します。
4. ディスプレイモードを設定します。
 - 動画がパノラマの場合は、まず2Dを選択し、次にFOVをパノラマに設定します。
 - 動画が3Dの場合は、まず動画フォーマットから3Dディスプレイモードを選択し、次にFOV、左右反転の有無を選択します。
5. 選択を確定した後、ショートカットメニューを終了すると、ディスプレイ設定に基づいてパノラマ／3D動画が再生されます。



- 対応動画フォーマットの詳細については、仕様を参照してください。
- ゴーグルにはスピーカーはありませんが、USB-Cポート経由でヘッドフォンに接続できます。Type-CヘッドフォンやDAC（デジタル - アナログ変換コンバーター）を内蔵したヘッドフォンアダプターにのみ対応します。

DJI モーションコント ローラー

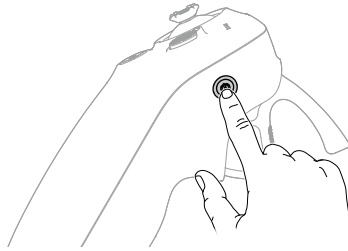
DJI モーションコントローラー

操作

電源のオン／オフ

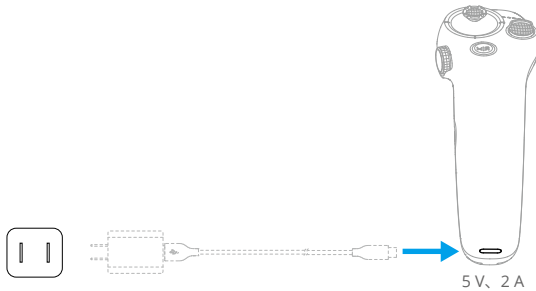
電源ボタンを1回押すと、バッテリー残量を確認できます。バッテリー残量が低下している場合、使用前に充電してください。

ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると、モーションコントローラーの電源オン／オフを切り替えられます。



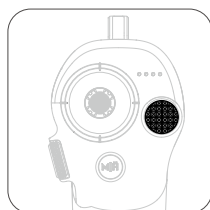
バッテリーの充電

USB-Cケーブルを使用して、充電器をモーションコントローラーのUSB-Cポートに接続します。



- ⚠️ 各フライトの前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
- バッテリーの状態を保つために、少なくとも3カ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。

ボタン機能



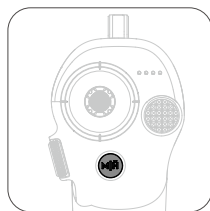
ロックボタン

- 離陸：2回押すと機体のモーターが起動し、長押しすると機体が離陸します。機体は約1.2 mまで上昇し、ホバリングします。
- 着陸：機体のホバリング中に長押しすると、機体は着陸し、モーターが停止します。
- 制動：飛行中に押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。



ジョイスティック

- 上下に動かすと、機体の上昇または下降します。
 - 左右に動かすと、機体が水平方向の左または右に動きます。
- 簡単ACROが有効になっている場合、ジョイスティックを動かして、さまざまな簡単ACRO動作を実行します。



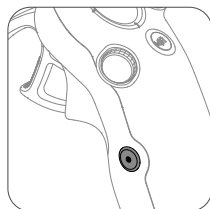
モードボタン

- 押すと、標準モードとスポーツモードが切り替わります。
- 長押しすると、RTHを起動します。機体がRTHを実行中に、モードボタンまたはロックボタンを1回押すとRTHはキャンセルされます。
- バッテリー残量が低下し、ホームポイントまでしか飛行できなくなると、ゴーグルに警告プロンプトが表示され、プロンプトに従ってRTHが開始されます。モードボタンを押すと、プロンプトはキャンセルされます。



ダイヤル

- 2回押すと、ゴーグルの飛行ライブビューとリアルビューが切り替わります。
- 離陸前、またはRTHおよび着陸中に、上下にスクロールするとカメラのチルトを調整できます。
- 簡単ACROが有効になっている場合、ダイヤルをスクロールすると簡単ACRO動作を切り替えることができます。
- ARカーソル使用時にダイヤルを長押しすると、画面上のカーソルが再センタリングされます。



シャッター／録画ボタン

- 1回押す：写真を撮影するか、録画を開始または停止します。
- 長押し：写真モードと動画モードを切り替えます。

アクセル



アクセルは、機体の姿勢と加速度を制御するために使用します。アクセルは2段階あります。軽くアクセルを引くと、アクセルは最初の停止位置に入り、ユーザーは顕著な抵抗を感じます。

- アクセルを軽く引いて最初の停止位置に入れた後、モーションコントローラーの上部を左右に傾けると、機体の向きを調整することができます。このとき、機体が前方に飛行しないことに注意してください。
- アクセルをさらに引いて最初の停止位置を過ぎると、ゴーグルの円の方向に飛行します。アクセルを前方に押し、機体は後方に飛行します。いずれかの方向にさらに圧力をかけると加速します。
- アクセルを操作していないときは、機体はホバリングします。

最適な伝送範囲

モーションコントローラーとゴーグル間の相対距離が3 m以下のとき、すべてのデバイス間の信号が最も信頼性が高くなります。



- ⚠ • モーションコントローラーとゴーグルの間に障害物がないように、屋外の開けた環境で使用することをお勧めします。障害物があると、伝送に影響を及ぼす恐れがあります。
- 干渉を避けるため、モーションコントローラーと同一の周波数で他の無線機器を絶対に使用しないでください。

モーションコントローラーのアラート

送信機は、バッテリー残量が6%~10%になるとアラートが鳴ります。電源ボタンを押すと、ローバッテリーのアラート音をキャンセルできます。バッテリー残量が5%未満の場合、重度のローバッテリーアラートが鳴り、これはキャンセルできません。送信機はRTH中にアラートを鳴らし、これはキャンセルできません。

モーションコントローラーのキャリブレーション

モーションコントローラーのコンパス、IMU、アクセルがキャリブレーションできます。

キャリブレーションを促す画面が表示されたら、対応するモジュールのキャリブレーションをすぐ実行してください。

1. 飛行ライブビューで5Dボタンを押して、メニューを開きます。
2. [設定] > [制御] > [モーションコントローラー] > [送信機キャリブレーション]の順に選択します。
3. モジュールを選択し、プロンプトに従ってキャリブレーションを完了します。

-
- ☀️
- 磁石の近く、駐車場、地下に鉄筋コンクリート構造物のある建設現場など、磁気干渉が強い場所ではコンパスをキャリブレーションしないでください。
 - キャリブレーション中は、携帯電話などの強磁性体を携帯しないでください。
-

DJI Flyアプリ

DJI Flyアプリ

Googleをモバイル端末に接続し、DJI Flyを起動し、ホーム画面に入ります。ユーザーはホーム画面から以下の操作ができます：

- おすすめの飛行スポットの表示、GEO区域の確認、現地の法律と規制に関する情報の確認、機能チュートリアル視聴、製品マニュアルの閲覧ができます。
- 写真と動画を見るにはアルバムを閲覧するか、SkyPixelの他の共有映像を閲覧してください。
- DJIアカウントでログインし、アカウント情報と飛行記録を確認できます。
- ファームウェアの更新、Find My Droneを使用した紛失した機体の検索、DJIフォーラムへのアクセス、DJIストアでの購入。

[Go Fly]をタップして動画伝送を表示します。これによりFPVカメラビューの共有ができます。



- DJI Flyを起動する前に、モバイル端末を完全に充電してください。
 - DJI Flyの使用中は、モバイルデータ通信を使用します。データ使用料については、お使いの通信会社にお問い合わせください。
 - スマートフォンをディスプレイ機器として使用している場合は、飛行中に電話を受けたり、テキストメッセージ機能を使用したりしないでください。
 - 画面に表示される安全性に関するプロンプト、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連規制を事前に確認しておいてください。ユーザーには、関連法規をすべて認識のうえ、これを順守して飛行させる責任があります。
 - アプリの使用は、DJI Flyの利用規約とDJIのプライバシーポリシーの対象となります。これらの利用規約とプライバシーポリシーは、DJIの法的責任の一部を制限します。<https://developer.dji.com/policies/> にアクセスし、内容をよくお読みください。
-

付録

付録

仕様

DJI Avata 2

離陸重量	約377 g
寸法	185×212×64 mm (縦×横×高さ)
最大上昇速度	6 m/s (標準モード) 9 m/s (スポーツモード)
最大下降速度	6 m/s (標準モード) 9 m/s (スポーツモード)
最大水平速度 (海拔付近、無風)	8 m/s (標準モード) 16 m/s (スポーツモード) 27 m/s (マニュアルモード) *
	* EU地域では、マニュアルモードで19 m/s未満。
最大離陸高度 ^[1]	5,000 m
最大飛行時間 ^[2]	約23分
最大ホバリング時間 ^[3]	約23分
最大飛行距離 ^[4]	13.0 km
最大風圧抵抗	10.7 m/s (レベル5)
動作環境温度	-10~40°C
全球測位衛星システム (GNSS)	GPS + Galileo + BeiDou
ホバリング精度範囲	垂直方向： ±0.1 m (ビジョンポジショニング使用時) ±0.5 m (GNSSポジショニング使用時) 水平方向： ±0.3 m (ビジョンポジショニング使用時) ±1.5 m (GNSSポジショニング使用時)
内部ストレージ	46 GB
カメラ	
イメージセンサー	1/1.3インチ イメージセンサー 有効画素数：12 MP
レンズ	FOV：155° 35 mm判換算：12 mm 絞り：f/2.8 フォーカス：0.6 m~∞
ISO感度	100~25600 (自動) 100~25600 (手動)

シャッター速度	動画：1/8000～1/30秒 静止画：1/8000～1/50秒
最大静止画サイズ	4000×2256 (16:9) 4000×3000 (4:3)
静止画モード	シングル撮影
静止画フォーマット	JPEG
動画解像度	4K (4:3)：3840×2880@30/50/60fps 4K (16:9)：3840×2160@30/50/60fps 2.7K (4:3)：2688×2016@30/50/60fps 2.7K (16:9)：2688×1512@30/50/120fps 1080p (4:3)：1440×1080@30/50/120fps 1080p (16:9)：1920×1080@30/50/120fps
動画フォーマット	MP4 (H.264/H.265)
最大動画ビットレート	130 Mbps
対応ファイルシステム	exFAT
カラーモード	標準 D-Log M
カメラFOV	標準モード、広角モード、超広角モード対応
EIS (電子式映像ぶれ補正)	RockSteady 3.0+とHorizonSteady対応 無効化できます* * 映像ブレ補正がオフの場合、広角ビューで撮影された映像はオフライン映像 ブレ補正ソフトウェアGyroflow対応。
ジンバル	
映像ブレ補正	単軸メカニカルジンバル (チルト)
機械的可動範囲	チルト：-95° ～+90°
操作可能範囲	チルト：-85° ～+80°
最大制御速度 (チルト)	100° /s
角度ぶれ範囲	± 0.01°
電子式ロール軸	リアルタイム画面補正は録画中には利用できませんが、ドローンで録画した映像に適用することができます。
検知	
検知タイプ	下方/後方ビジュアルポジショニング
下方	ToF有効測定高度：10 m 高精度ホバリング範囲：0.3～10 m 測定範囲：0.3～20 m FOV：水平 78°、垂直 78°
後方	測定範囲：0.5～20 m FOV：水平 78°、垂直 78°

動作環境	識別可能な模様のある拡散反射面、拡散反射率 > 20% (コンクリート舗装など) 十分な明るさのある環境 (照度 > 15ルクス、通常の室内照明条件)
動画伝送	
動画伝送システム	O4
ライブビュー品質	1080p@30/50/60/100fps
動作周波数	2.4000~2.4835 GHz 5.170~5.250 GHz* 5.725~5.850 GHz* * 5.170~5.250 GHzと5.725~5.850 GHzは、その周波数が法律および規制によって許可されている国や地域でのみ利用できます。(日本国内は2.4 GHz帯のみ利用可能)
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz: <33 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本)) 5.1 GHz: < 23 dBm (CE) 5.8 GHz: <33 dBm (FCC)、<30 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE)
通信帯域幅	最大60 MHz
最大伝送距離 (障害物、電波干渉のない場合) ^[5]	FCC: 13 km (機体の最大飛行時間による) CE: 10 km SRRC: 10 km MIC: 10 km
最大伝送距離 (障害物はなく、電波干渉がある場合) ^[6]	強い干渉: (都市部の景観): 約1.5~4 km 中程度の干渉: (郊外の景観): 約4~10 km 軽度の干渉: (郊外/海辺) 約10~13 km
最大伝送距離 (障害物があり、電波干渉がある場合) ^[7]	弱い干渉と建物などの障害物がある場合: 約0~0.5 km 弱い干渉と木々などの障害物がある場合: 約0.5~3 km
最大ダウンロード速度	Wi-Fi: 25 MB/s* * 2.4 GHzと5.8 GHzの両方の周波数帯の使用が認められた国/地域で、少し電波干渉のあるラボ環境下で測定。ダウンロード速度は、実際の状況によって変わる場合があります。
最小遅延	DJI Goggles 3使用時: 1080p/100fps動画伝送品質: 24 ms 1080p/60fps動画伝送品質: 40 ms
最大動画ビットレート	60Mbps
アンテナ	アンテナ×4、2T4R
Wi-Fi	
プロトコル	802.11a/b/g/n/ac
動作周波数	2.4000~2.4835 GHz 5.725~5.850 GHz
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz: <20 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC (日本)) 5.8 GHz: <20 dBm (FCC/SRRC)、< 14 dBm (CE)

Bluetooth

プロトコル	Bluetooth 5.0
動作周波数	2.4000~2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	<10 dBm

インテリジェント フライトバッテリー

容量	2150 mAh
重量	約145 g
標準電圧	14.76 V
最大充電電圧	17 V
バッテリータイプ	リチウムイオン
電力量	31.7 Wh@0.5C
充電温度範囲	5℃~40℃

充電時間	充電ハブ使用 (最大充電電力60 W) : 0%から100%まで: 約45分 10%から90%まで: 約30分 ドローンへの直接充電: (最大充電電力30 W) : 0%から100%まで: 約88分 10%から90%まで: 約60分
------	---

充電器

推奨充電器	DJI 65W ポータブル充電器 DJI 65W カーチャージャー USB PD規格対応 充電器
-------	--

バッテリー充電ハブ

入力	5~20 V、最大3 A
----	--------------

充電ハブ

出力電力 (集電)	最大65 W
出力 (充電)	最大17 V
出力 (USB)	5 V、2 A
充電タイプ	3つのバッテリーを順番に充電。
互換性	DJI Avata 2 インテリジェント フライトバッテリー

ストレージ

推奨microSDカード	SanDisk Extreme PRO 32GB U3 A1 V30 microSDHC Lexar Professional 1066x 64GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar Professional 1066x 128GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar Professional 1066x 256GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar Professional 1066x 512GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston CANVAS Go!Plus 64GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston CANVAS Go!Plus 128GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston CANVAS React Plus 64GB U3 A1 V90 microSDXC Kingston CANVAS React Plus 128GB U3 A1 V90 microSDXC Kingston CANVAS React Plus 256GB U3 A1 V90 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB U3 A2 V30 microSDXC
--------------	---

- [1] 高度5000 mから離陸し、500 m垂直に上昇、スポーツモード使用、バッテリー残量が100%から20%になるまで、無風環境下で測定。このデータはあくまで参考用です。飛行中、ゴーグルの画面に表示されるリマインダーに、常に注意してください。
- [2] カメラパラメーター1080p/30fps、動画モードオフ、バッテリー残量が100%から0%になるまで、海拔0mの無風環境下、定速21.6km/hで前進飛行の条件で測定。このデータはあくまで参考用です。飛行中、ゴーグルの画面に表示されるリマインダーに、常に注意してください。
- [3] カメラパラメーター1080p/30fps、動画モードオフ、バッテリー残量が100%から0%になるまで、海拔0mの無風環境下でのホバリング時に測定。このデータはあくまで参考用です。飛行中、ゴーグルの画面に表示されるリマインダーに、常に注意してください。
- [4] カメラパラメーター1080p/30fps、動画モードオフ、バッテリー残量が100%から0%になるまで、海拔0mの無風環境下、定速43.2km/hで前進飛行の条件で測定。このデータはあくまで参考用です。飛行中、ゴーグルの画面に表示されるリマインダーに、常に注意してください。
- [5] 電波干渉および障害物のない屋外環境での測定値です。上記のデータは、各基準下での復路のない片道飛行で最も遠い通信範囲を示しています。飛行中、ゴーグル画面に表示されるRTHリマインダーに常に注意してください。
- [6] FCCに準拠し、障害物がなく、一般的な干渉のある環境下で測定。このデータはあくまで参照用の値であり、実際の伝送距離を保証するものではありません。
- [7] FCCに準拠し、一般的な弱い干渉の環境下で測定。このデータはあくまで参照用の値であり、実際の伝送距離を保証するものではありません。

DJI Goggles 3

モデル	TKGS3
重量	約470 g
寸法（長さ×幅×高さ）	アンテナ折りたたみ時：170×109×112 mm（縦×横×高さ） アンテナ展開時：205×109×112 mm（縦×横×高さ）
画面サイズ（一画面）	0.49インチ
解像度（一画面）	1920×1080
リフレッシュレート	最大100 Hz
瞳孔間距離（IPD）	56～72 mm
視度調整範囲	-6.0 D ～ +2.0 D
FOV（一画面）	44°
動画録画フォーマット	MOV
対応動画とオーディオ再生形式	MP4、MOV（動画コーディング形式：H.264、H.265、オーディオフォーマット：AAC、PCM） パノラマ動画：球面2Dパノラマ動画。 3D動画：Half-Side-by-Side (HSBS)、Full-Side-by-Side (FSBS)、Half Over-Under (HOU)、Full Over-Under (FOU)。 最大動画スペック：4K/60fps
リアルビュー FOV	44°
動作環境温度	-10°C～40°C
電源入力	内蔵バッテリー
対応SDカード	microSD（最大512 GB）
推奨microSDカード	Sandisk Extreme Pro 32GB U3 A1 V30 microSDHC Lexar 1066x 64GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar 1066x 128GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar 1066x 256GB U3 A2 V30 microSDXC Lexar 1066x 512GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston Canvas Go!Plus 64GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston Canvas Go!Plus 128GB U3 A2 V30 microSDXC Kingston Canvas React Plus 64GB U3 A1 V90 microSDXC Kingston Canvas React Plus 128GB U3 A1 V90 microSDXC Kingston Canvas React Plus 256GB U3 A1 V90 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB U3 A2 V30 microSDXC

動画伝送

動画伝送
異なる機体で使用する場合、ゴーグルは、使用する機体の動画伝送仕様に対応するファームウェアを自動的に選択します。
DJI Avata 2使用時：DJI O4

動作周波数^[1]
2.4000～2.4835 GHz
5.170～5.250 GHz
5.725～5.850 GHz

伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz: <33 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC) 5.1 GHz: <23 dBm (CE) 5.8 GHz: <33 dBm (FCC)、<30 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE)
遅延 ^[2]	DJI Avata 2 使用時： 1080p/100fps 動画伝送品質：最小遅延24 ms 1080p/60fps 動画伝送品質：最小遅延40 ms
最大伝送距離	DJI Avata 2 と DJI Goggles 3 を使用する場合、下記の最大動画伝送距離を実現します： 13 km (FCC)、10 km (CE/SRRC/MIC)
最大動画ビットレート ^[3]	60Mbps
Wi-Fi	
プロトコル	802.11a/b/g/n/ac
動作周波数 ^[1]	2.4000~2.4835 GHz 5.170~5.250 GHz 5.725~5.850 GHz
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz: <20 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC) 5.1 GHz: <20 dBm (FCC/CE/MIC) 5.8 GHz: <20 dBm (FCC/SRRC)、<14 dBm (CE)
Bluetooth	
プロトコル	Bluetooth 5.0
動作周波数	2.4000~2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	<10 dBm
GFSK	
動作周波数	2.4000~2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	<26 dBm (FCC)、 <20 dBm (SRRC/CE/MIC (日本))
バッテリー	
寸法	121×65×52.5 mm (縦×横×高さ)
容量	3000 mAh
電圧	5.6~8.4 V
カテゴリ	リチウムイオン
材料	LiNiMnCoO ₂
電力量	21.6 Wh
充電温度範囲	0°C~50°C
最大充電電力	20 W (電源オフ時に充電)
稼働時間 ^[4]	約3時間

- [1] 一部の国や地域では、5.1GHzまたは5.8GHzの周波数帯、あるいはその両方の使用を禁止しています。また、5.1 GHz周波数帯の使用が、屋内でのみ利用可能な国や地域も一部あります。フライト前に、必ず現地の規制を確認し順守するようにしてください。
- [2] 電波干渉のない、開けた屋外環境で測定された値です。実際のデータは、機体のモデルによって異なります。
- [3] 電波干渉のない、開けた屋外環境で測定された値です。実際のデータは、動作環境によって異なります。
- [4] 最大動作時間3時間は、周辺温度が25°Cの状態、画面輝度4、DJI Avata 2機体を接続し、動画伝送モード1080p/100fps、ヘッドトラッキングをオフに設定し、Real Viewをオフに設定し、完全に充電されたゴーグルを使用し、スマートフォンなどの外部機器に電源を供給していない状態で測定。

DJI RC Motion 3

モデル	TKMO3
重量	約118 g
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	2.4000～2.4835 GHz: <26 dBm (FCC)、 <20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本))
最大伝送距離 (障害物、電波干渉のない場合) ^[1]	DJI Avata 2とDJI Goggles 3使用時： FCC：13 km CE/SRRC/MIC (日本)：10 km
動作環境温度	-10～40℃
動作時間	約10時間* * 周辺温度25℃の環境で、DJI Avata 2と接続して静置された状態で測定した値です。

バッテリー

充電温度範囲	0° ～50° C
充電時間	約2時間
充電タイプ	5 V、2 A
バッテリー容量	2600 mAh

[1] 電波干渉および障害物のない屋外環境での測定値です。上記のデータは、各基準下での復路のない片道飛行で最も遠い通信範囲を示しています。飛行中、ゴーグル画面に表示されるRTHリマインダーに常に注意してください。

対応製品

以下のリンクから対応製品をご覧ください：

<https://www.dji.com/avata-2/faq>

ファームウェアの更新

以下の方法のいずれかを使用して、ファームウェアを更新します。

1. 機体、ゴーグル、送信機を含むデバイス一式のファームウェアを更新するにはDJI Flyアプリを使用します。
2. 1つのデバイスのファームウェアを更新するには、DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用します。

DJI Flyの使用

機体、ゴーグル、送信機の電源を入れます。すべてのデバイスがリンクされていることを確認します。ゴーグルのUSB-Cポートとモバイル端末を接続し、DJI Flyを起動し、プロンプトに従って更新を行います。インターネット接続が必要となります。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用

1. デバイスの電源を入れます。USB-Cケーブルで、デバイスをパソコンに接続します。
2. DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を起動し、DJIアカウントでログインします。
3. デバイスを選択し、画面左側にあるファームウェア更新をクリックします。
4. 更新するファームウェアのバージョンを選択して確定します。
5. ファームウェアがダウンロードされるまで待ちます。ファームウェアの更新が自動的に開始されます。
6. ファームウェア更新が完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

- ⚠
- 更新が必要なバッテリーがさらにある場合、バッテリーを機体に挿入し、機体の電源を入れてください。ゴーグルにバッテリー更新のプロンプトが表示されます。離陸の前には、必ずバッテリーが更新されていることを確認してください。
 - 必ず記載されている全ての手順に従って、ファームウェアを更新してください。手順に従わない場合には更新に失敗する場合があります。
 - 更新中はパソコンがインターネットに接続されていることを必ず確認してください。
 - 更新中はUSB-Cケーブルの接続を外さないでください。
 - ファームウェアの更新には数分かかります。更新処理中、ジンバルがゆっくりと動作し、機体ステータスインジケーターが点滅して機体が再起動し、ピーブ音が鳴りますが、これは正常な動作です。更新が完了するまでしばらくお待ちください。
 - 更新を実行する前に、ゴーグルのバッテリー残量が20%以上あり、送信機のバッテリー残量が15%以上であることを確認してください。
 - 更新により、RTH高度や最大飛行距離などのさまざまな飛行パラメーターがリセットされる場合があります。ご注意ください。更新の前に、ユーザー側で変更した設定内容を別途記録し、更新が完了したら再度設定し直してください。
 - DJIから指定されていないハードウェアやソフトウェアを使用しないでください。

ファームウェア更新情報については、以下のリンクにアクセスし、リリースノートを参照してください：

<https://www.dji.com/avata-2/downloads>

メンテナンスについての指示

子供や動物への深刻な傷害を避けるために、次の規則を守ってください。

1. ケーブルやストラップなどの小さい部品は、飲み込むと危険です。すべての部品を子供やペットの手の届かない場所に保管してください。
2. 内蔵のLiPoバッテリーが過熱しないように、インテリジェント フライトバッテリーと送信機は直射日光の当たらない涼しく乾燥した場所に保管してください。3か月以上の期間にわたって保管する場合は、22°C~28°Cの保管環境温度を推奨します。温度が-10°C~45°Cの範囲の環境以外では保管しないでください。
3. カメラを水などの液体に接触させたり、浸したりしないでください。万が一濡れた場合は、柔らかく吸収性の高い布で拭いて、乾かしてください。落下し浸水した機体の電源を入れると、構成部品が完全に損傷する恐れがあります。アルコール/ベンジン/シンナーなどの可燃性物質を含む物質を用いて、カメラを清掃したりメンテナンスしたりしないでください。湿気や埃の多い場所にカメラを保管しないでください。
4. 本製品をバージョン3.0より古いUSBインターフェースに接続しないでください。本製品を「Power USB」や類似のデバイスに接続しないでください。
5. 墜落や深刻な衝撃を受けた場合は、機体の各部を確認してください。問題やご質問がある場合は、DJI正規代理店にご相談ください。
6. バッテリー残量インジケーターを定期的に確認して、現在のバッテリー残量とバッテリー寿命全体を確認してください。バッテリーの定格は200充電サイクルです。この回数を超える使用は、推奨されていません。
7. フライト後チェックリスト
 - a. インテリジェント フライトバッテリーおよびプロペラが良好な状態であることを確認してください。
 - b. カメラレンズとビジョンシステムのセンサーに汚れがないことを確認してください。
 - c. 機体を保管したり輸送する前に、ジンバル プロテクターを必ず取り付けないようにしてください。
8. 電源オフ時には、必ずアームを折りたたんだ状態で機体を輸送するようにしてください。
9. 電源オフ時には、必ずアンテナを折りたたんだ状態で送信機を輸送するようにしてください。
10. 長期間保管すると、バッテリーはスリープモードに入ります。スリープモードを終了するには、バッテリーを充電してください。
11. 露光時間を長くする必要のある場合、NDフィルターを使用してください。NDフィルターの取り付け方法については、製品情報を参照してください。
12. 機体、送信機、バッテリー、充電器は乾いた環境で保管してください。
13. 機体を整備する前に、バッテリーを取り外してください（清掃、またはプロペラの取り付けや取り外しなど）。機体やプロペラに泥や埃が付いている場合、必ず柔らかい布で清掃して取り除いてください。濡れた布やアルコール分を含んだ洗浄剤を使用して、機体を清掃しないでください。液体が機体のハウジングに侵入し、短絡や電子部品破損の原因となります。
14. プロペラの交換や点検時にはバッテリーの電源を切ってください。

トラブルシューティングの手順

1. 初回飛行前に、バッテリーを使用できませんが、なぜでしょうか？
初回飛行前にバッテリーを充電し、アクティベーションする必要があります。
2. 飛行中、ジンバルのドリフト問題が起きる場合、どのように解決すればよいですか？
DJI Flyアプリで、IMUとコンパスをキャリブレーションしてください。問題が解決しない場合は、DJI サポートにお問い合わせください。
3. 動作しません
インテリジェント フライトバッテリーと送信機が、充電によりアクティベーションされているかどうかを確認してください。問題が解決しない場合は、DJI サポートにお問い合わせください。
4. 電源投入と起動に関する問題
バッテリーから電源が供給されているかどうかを確認してください。電源が供給されていても正常に起動しない場合は、DJI サポートまでお問合せください。
5. ソフトウェア更新の問題
ユーザーマニュアルの指示に従って、ファームウェアを更新してください。ファームウェア更新が失敗した場合は、すべてのデバイスを再起動してから再試行してください。問題が解決しない場合は、DJI サポートにお問い合わせください。
6. 工場出荷時のデフォルトあるいは最後に確認された正常動作設定にリセットする手順
ゴールのメニューを開き、[設定] > [詳細] > [工場出荷時のデフォルトにリセット] を選択します。
7. シャットダウンおよび電源オフの問題
DJIサポートにお問い合わせください。
8. 不注意な取り扱いや安全性に問題のある状態での保管を検知する方法
DJIサポートにお問い合わせください。
9. 長期保管後に使用する場合はどうすればよいですか？
機器を完全に充電すると、通常使用ができるようになります。

リスクと警告

DJI Avata 2

電源を入れた後、機体何らかの危険を検知すると、DJI Flyアプリに警告プロンプトが表示されます。

以下のような状況に注意してください。

1. その場所が離陸に適していない場合。
2. 飛行中に障害物を検出した場合。
3. その場所が着陸に適していない場合。
4. コンパスまたはIMUが干渉に影響され、キャリブレーションの必要がある場合。
5. プロンプトが表示されたら画面上の指示に従います。

DJI Goggles 3

電源を入れた後、機体は何らかの危険を検知すると、ゴーグル画面に警告プロンプトが表示されます。飛行中のプロンプトに注意し、製品の損傷や傷害の危険を避けるために必要な処置を適宜行ってください。

機体の信号が失われた時の機体の動作がRTHに設定されている場合、飛行中に制御信号または通信が失われると、機体は自動的にフェールセーフRTHを開始し、最後に記録されたホームポイントに帰還します。

飛行中の衝突の発生、モーター停止、空中での機体のローリング、機体の操縦不能、急激な上昇／降下などの緊急時には、モーションコントローラーのロックボタンを4回押すことでモーターを停止できます。

 ・飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。慎重に操作してください。

飛行中にゴーグル画面が不意に消えた場合は、まずモーションコントローラーのロックボタンを1回押して機体を制動させ、その後手動でRTHを開始してください。機体の帰還後、ゴーグルの電力レベルを確認し、ゴーグルの再起動を試してください。問題が解決しない場合は、DJI サポートにお問い合わせください。

廃棄処分について



機体や送信機を廃棄するときには、電子機器に関する現地の規制を順守してください。

バッテリーの廃棄

バッテリーは完全に放電してから、指定のリサイクル容器に入れて廃棄してください。バッテリーを普通のごみ容器に捨てないでください。バッテリーの廃棄やリサイクルに関する現地の規制を厳守してください。

バッテリーの過放電後、電源が入らない場合は、バッテリーを直ちに廃棄してください。

インテリジェント フライトバッテリーの電源ボタンが不能になり電源のオンオフができなくなり、バッテリーを完全に放電できない場合は、バッテリーの廃棄業者もしくはリサイクル業者に問い合わせて、サポートを受けてください。

フライトデータ

フライトテレメトリ、機体のステータス情報、その他のパラメーターなどのフライトデータは、機体内蔵のデータレコーダーに自動的に保存されます。DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用して、データにアクセスできます。

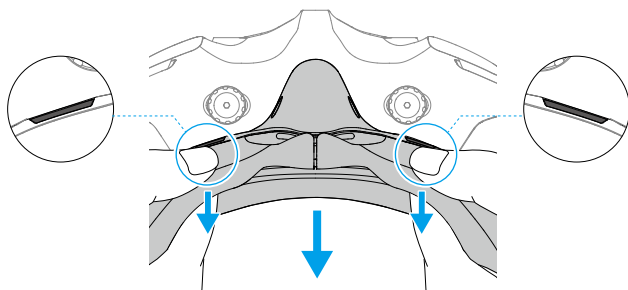
アフターサービス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、<https://www.dji.com/support>をご確認ください。

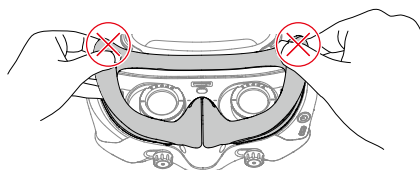
メンテナンス

ゴーグルのフォームパッドの交換

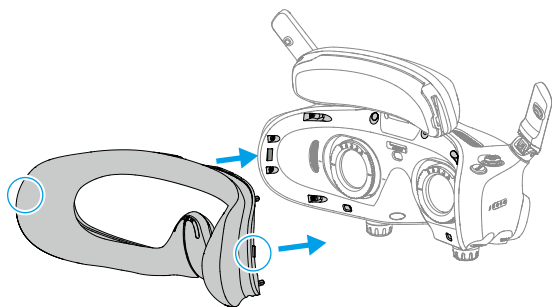
1. フォームパッドの底部を持ち、以下の図で示すようにやさしく取り外します。



- ⚠ ・ フォームパッドの取り外し時には両側を引っ張らないでください。引っ張ると、パッドが破損する恐れがあります。



2. 図のように、新しいフォームパッドの位置決め用の突起部をゴーグルの位置決め用の穴と揃えます。取り付けて、輪郭に沿って押します。フォームパッドの両側を押すと「カチッ」という音がしますが、フォームパッドとゴーグルの間に隙間がないことを確認してください。



ゴーグルの清掃とメンテナンス

柔らかい清潔な布でゴーグルの表面をきれいにします。レンズ用クリーニングクロスを使用して、レンズの中心から外縁に向かって円を描くように拭き取ります。

-
- ⚠
- ゴーグル一体型レンズはアルコールウェットティッシュで拭かないでください。矯正レンズを取り付けた場合は、使い捨てアルコールパッドで拭いてください。
 - レンズは優しく拭いてください。視界品質に影響を及ぼすことがあるので、レンズをこすらないでください。
 - アルコールやその他の洗浄剤を使用してフォームパッドとバッテリー収納部の柔らかい面を拭かないでください。
 - 鋭利な物で、フォームパッド、追加の額パッド、バッテリー収納部の柔らかい面を破ったり、引っかいたりしないでください。
 - 高温や湿度の高い環境によりレンズや他のコンポーネントが損傷しないように、ゴーグルは室温の乾燥した場所で保管してください。
 - 画面の損傷を防ぐため、レンズを直射日光に当てないでください。
-

お問い合わせ



連絡先
DJIサポート

本書の内容は変更されることがあります。



<https://www.dji.com/avata-2/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI（DocSupport@dji.com宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJIとDJI AVATAは、DJIの商標です。

Copyright © 2024 DJI All Rights Reserved.